

(様式第10)

厚生労働大臣 殿
開設者名 国立大学法人岡山大学長 那須保友
令和 5年 10月 3日
番 岡大病総第129号

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
氏名	国立大学法人岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

岡山大学病院

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号
電話(086)223-7151

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器内科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科及びリウマチ科で提供される医療については、内科で提供している。また、神経内科で提供される医療については、脳神経内科で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		○	6心臓血管外科		7内分泌外科		○
8小児外科							
診療実績							
呼吸器外科、乳腺外科及び内分泌外科で提供される医療については、外科で提供している。また、消化器外科で提供される医療については、消化管外科及び肝・胆・膵外科で提供している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	消化管外科	3	肝・胆・膵外科	4	形成外科	5	小児神経科
6	病理診断科	7	リハビリテーション科	8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34	2			817	853

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	333	299.8	632.8
歯科医師	84	76.5	160.5
薬剤師	66	0	66
保健師	0	0	0
助産師	32	0.7	32.7
看護師	975	13.7	988.7
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	16	0	16
管理栄養士	9	0.8	9.8

職種	員数
看護補助者	43
理学療法士	27
作業療法士	8
視能訓練士	6
義肢装具士	0
臨床工学士	25
栄養士	0
歯科技工士	7
診療放射線技師	56

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	70
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	5	
その他の技術員	50	
事務職員	420	
その他の職員	44	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	45	眼科専門医	7
外科専門医	24	耳鼻咽喉科専門医	8
精神科専門医	4	放射線科専門医	7
小児科専門医	27	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	28
泌尿器科専門医	1	麻酔科専門医	12
産婦人科専門医	12	救急科専門医	7
		合計	196

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (前田 嘉信) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

医療事故防止委員会委員 平成29年7月1日～令和元年5月31日

医療安全管理委員会委員長 令和3年4月1日～現在

医療安全管理委員会医員 令和元年6月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	536.2 人	14.7 人	551.0 人
1日当たり平均外来患者数	1679.1 人	483.1 人	2162.3 人
1日当たり平均調剤数		1082.2	剤
必要医師数		150.9	人

必要歯科医師数	26	人
必要薬剤師数	19	人
必要(准)看護師数	349	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	1,161.6 m ²	鉄筋コンクリート	60 床		有	
			人工呼吸装置		有	心細動除去装置
			その他の救急蘇生装置		有	ペースメーカー
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	236.1	m ²	病床数	23 床
	[移動式の場合]	台数	-	台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	40.5	m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名	-			
化学検査室	362 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動化学発光免疫測定装置、生化学自動分析装置 外		
細菌検査室	130 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置、全自動細菌同定感受性検査装置、孵卵器 外		
病理検査室	487 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動包埋装置、自動染色装置、自動免疫染色装置、クリオスタット 他		
病理解剖室	111 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、遺体保存用冷蔵庫 外		
研究室	4,410 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ドラフトチャンバー、クリーンベンチ、冷蔵庫、冷凍庫、中央実験台 外		
講義室	969 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員	694 人
図書室	1,938 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	蔵書数	215,016 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	97.4	%	逆紹介率	157.7	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,768		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		38,470		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		4,003		人
	D: 初診の患者の数		24,401		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会(会長)	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
長谷川 威	岡山中央法律事務所(弁護士)		法律に関する識見を有するため	無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学(名誉教授)		医療を受ける者の代表者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては、健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名	患者申出療養 経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 全身麻酔導入後、通常は、RFA治療前にセンチネルリンパ節生検を施工する。RFAの手技はUSで腫瘍を確認し穿刺部位をまず決定する。続いて、US画像をガイドとして電極針を穿刺部位より腫瘍に刺入して、ジェネレーターというラジオ波発生装置に接続し、通電を開始する。1回の通電につき通常10分前後でインピーダンスが上昇し、通電完了する。通電終了後は電極針を抜去する。USを再度撮像し、治療効果および合併症の有無を観察し、治療終了となる。 RFA施行後、数週間後より通常の乳房照射を追加し局所治療を終了する。			
医療技術名	患者申出療養 マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分子標的治療	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 本治療は、遺伝子パネル検査を受け、actionableな遺伝子異常を有することが判明した患者の申出に基づき、当該遺伝子異常に対応する適応外薬を患者申出療養制度に基づいて投与することを目的とする。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	6
取り扱い患者数の合計(人)	43

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病		74
2	筋萎縮性側索硬化症	39	57	特発性拡張型心筋症		98
3	脊髄性筋萎縮症	14	58	肥大型心筋症		22
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症		1
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血		16
6	パーキンソン病	222	61	自己免疫性溶血性貧血		0
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		4
8	ハンチントン病	10	63	特発性血小板減少性紫斑病		17
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病		0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群		15
11	重症筋無力症	85	66	IgA腎症		59
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎		41
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	50	68	黄色靱帯骨化症		10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	24	69	後縦靱帯骨化症		70
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症		6
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症		40
17	多系統萎縮症	24	72	下垂体性ADH分泌異常症		21
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	70	73	下垂体性TSH分泌亢進症		1
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症		17
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病		13
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		2
22	もやもや病	53	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		45
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症		135
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		3
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症		1
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		6
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症		0
28	全身性アミロイドーシス	56	83	アジソン病		1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス		97
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎		57
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症		54
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症		10
34	神経線維腫症	36	89	リンパ脈管筋腫症		18
35	天疱瘡	21	90	網膜色素変性症		16
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群		3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症		2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎		64
39	中毒性表皮壊死症	0	94	旧病名(原発性胆汁性肝硬変)		
40	高安動脈炎	28	95	原発性硬化性胆管炎		13
41	巨細胞性動脈炎	16	96	自己免疫性肝炎		38
42	結節性多発動脈炎	9	97	クローン病		219
43	顕微鏡的多発血管炎	37	98	潰瘍性大腸炎		402
44	多発血管炎性肉芽腫症	33	99	好酸球性消化管疾患		7
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	29	100	慢性特発性偽性腸閉塞症		1
46	悪性関節リウマチ	14	101	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		0
47	パージャール病	1	102	腸管神経節細胞減少症		0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	ルビンシュタイン・テイビ症候群		0
49	全身性エリテマトーデス	215	104	GFC症候群		0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	96	105	コステロ症候群		0
51	全身性強皮症	76	106	チャージ症候群		0
52	混合性結合組織病	26	107	クリオピリン関連周期熱症候群		1
53	シェーグレン症候群	20	108	若年性特発性関節炎		7
54	成人ステル病	7	109	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)		
55	再発性多発軟骨炎	5	110	TNF受容体関連周期性症候群		0
				非典型溶血性尿毒症症候群		0
				ブラウ症候群		0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患名		患者数		疾患名		患者数
111	先天性ミオパチー	1	166	弾性線維性仮性黄色腫		0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群		1
113	筋ジストロフィー	16	168	エーラス・ダンロス症候群		1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	169	メンケス病		0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシタル・ホーン症候群		0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病		5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

117	脊髄空洞症	10	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	1	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	1
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	182	アペール症候群	1
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	3
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	3
135	アイカルディ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	1	191	ウェルナー症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	2	195	ヌーナン症候群	1
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	4	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	4	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	3
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	209	完全大血管転位症	3
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	15
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	3
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	2
158	結節性硬化症	12	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	5
159	色素性乾皮症	2	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1
160	先天性魚鱗癬	2	215	ファロー四徴症	10
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	7
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8	217	エプスタイン病	5
163	特発性後天性全身性無汗症	3	218	アルポート症候群	2
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	1	220	急速進行性糸球体腎炎	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	41	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	7	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	2
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	2
227	オスラー病	8	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	1	283	後天性赤芽球癆	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

230	肺胞低換気症候群	0	285	ファンconi貧血	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	2
235	副甲状腺機能低下症	2	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	7
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	1
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
244	メープルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	9
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	0
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	1	306	好酸球性副鼻腔炎	81
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	0	309	進行性ミオクロームスてんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	1	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	317	三頭筋素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	1	318	シトリン欠損症	0
264	無 β リポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	1	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクト症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	2	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	13	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	6	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	8	335	ネフロン癆	0
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0	336	家族性低 β リポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0	337	ホモシスチン尿症	0
334	脳クリアチン欠乏症候群	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	159
合計患者数(人)	3470

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科診療特別対応連携加算	・後発医薬品使用体制加算2
・特定機能病院入院基本料(一般)	・病棟薬剤業務実施加算1
・病棟薬剤業務実施加算2	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料(精神)	・入退院支援加算
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算
・医師事務作業補助体制加算1	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料4
・看護職員夜間配置加算	・特定集中治療室管理料1
・療養環境加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・特定集中治療室管理料3	・一類感染症患者入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料4
・無菌治療室管理加算2	・看護職員処遇改善評価料78
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・精神科退院時共同指導料1及び2
・糖尿病合併症管理料	・歯科治療時医療管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・がん患者指導管理料イ	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・がん患者指導管理料ロ	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・がん患者指導管理料ハ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・外来緩和ケア管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後)	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝学的検査
・小児運動器疾患指導管理料	・染色体検査の注2に規定する基準
・婦人科特定疾患治療管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・腎代替療法指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・一般不妊治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・生殖補助医療管理料1	・先天性代謝異常症検査
・二次性骨折予防継続管理料1	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・二次性骨折予防継続管理料3	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・下肢創傷処置管理料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来放射線照射診療料	・検体検査管理加算(IV)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・国際標準検査管理加算
・連携充実加算	・遺伝カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ヘッドアップティルト試験
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・医療機器安全管理料2
・こころの連携指導料(Ⅱ)	
・薬剤管理指導料	
・医療機器安全管理料1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・頭部MRI撮影加算
・脳波検査判断料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・神経学的検査	・外来化学療法加算1
・補聴器適合検査	・無菌製剤処理科
・ロービジョン検査判断料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・コンタクトレンズ検査料1	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・小児食物アレルギー負荷検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・内服・点滴誘発試験	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・がん患者リハビリテーション料
・経気管支凍結生検法	・リンパ浮腫複合的治療料
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・歯科口腔リハビリテーション料2
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・精神科作業療法
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・人工腎臓
・精密触覚機能検査	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算
・睡眠時歯科筋電図検査	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・画像診断管理加算1	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・画像診断管理加算3	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・歯科画像診断管理加算1	・手術用顕微鏡加算
・歯科画像診断管理加算2	・口腔粘膜処置
・遠隔画像診断	・う蝕歯無痛の窩洞形成加算
・CT撮影及びMRI撮影	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・冠動脈CT撮影加算	・歯科技工加算1及び2
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・センチネルリンパ節加算
・外傷全身CT加算	・皮膚移植術(死体)
・心臓MRI撮影加算	・自家脂肪注入
・乳房MRI撮影加算	
・小児鎮静下MRI撮影加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・四肢・躯幹部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・椎間板内酵素注入療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除手術	・同種死体肺移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・生体部分肺移植術
・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・網膜再建術	・内視鏡下筋層切開術
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	<small>・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)</small>
・人工中耳植込術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胸腔鏡下弁形成術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・胸腔鏡下弁置換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・顎関節人工関節全置換術(歯科)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・体外衝撃波胆石破碎術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下肝切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・生体部分肝移植術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・同種死体肝移植術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腓頭腫瘍切除術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腓頭腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・生体部分小腸移植術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・同種死体小腸移植術
・補助人工心臓	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・同種死体腎移植術
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・生体腎移植術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下総胆管拡張症手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・人工尿道括約筋植込・置換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・コーディネート体制充実加算
・精巣内精子採取術	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・同種クリオプレシペート作製術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下仙骨陰固定術	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下仙骨陰固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・口腔粘膜血管腫凝固術
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・麻酔管理料(I)
・麻酔管理料(II)	・周術期薬剤管理加算
・体外式膜型人工肺管理料	・歯科麻酔管理料
・尿道形成手術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・放射線治療専任加算
・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・外来放射線治療加算
・陰茎形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・高エネルギー放射線治療
・陰茎全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・一回線量増加加算
・精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・造脘術、脘閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・定位放射線治療
・子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(性同一性障害患者に対して行う場合に限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・子宮付属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・医科点数表第2章第10部手術の通則19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	・デジタル病理画像による病理診断
・輸血管管理料 I	・病理診断管理加算2
・貯血式自己血輸血管管理体制加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
代謝チェックポイントを中心とした腸管組織免疫寛容性の解明と治療開発	藤原 英晃	血液・腫瘍内科	5,460,000	補	日本学術振興会
神経操作と生体イメージングによる白血病-神経-循環連関の解明	浅田 騰	血液・腫瘍内科	5,850,000	補	日本学術振興会
persister癌細胞と腫瘍微小環境の双方を標的とした革新的腫瘍免疫療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	7,280,000	補	日本学術振興会
ケモカイン抑制能を強化した新規間葉系幹細胞による慢性閉塞性肺疾患の細胞療法開発	宮原信明	呼吸器・アレルギー内科	1,040,000	補	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病における糖鎖異常と進展機構	和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	6,500,000	補	日本学術振興会
ロングリードシーケンサーを活用した非コードリピート伸長病の病態解明研究	石浦 浩之	脳神経内科	6,890,000	補	日本学術振興会
前感作免疫による次世代型ウイルス製剤の腫瘍溶解性の強化に関する免疫分子機構の研究	藤原 俊義	消化管外科	9,360,000	補	日本学術振興会
マトリセルラータンパク質阻害によるがん微小環境の破壊と抗腫瘍効果の検討	豊岡 伸一	呼吸器外科	5,980,000	補	日本学術振興会
リンパ浮腫画像診断に基づいた新・複合的理学療法-AI技術によるキャズム克服-	品岡 玲	形成外科	910,000	補	日本学術振興会
上肢リンパ地図がもたらす乳がん術後リンパ浮腫予防	木股 敬裕	形成外科	9,620,000	補	日本学術振興会
ロボットを用いた画像ガイド下骨穿刺の実現:自動穿刺アルゴリズムの構築	平木 隆夫	放射線科	4,030,000	補	日本学術振興会
コラーゲン結合型FGF-2による水平性歯槽骨吸収に対する歯周組織再生療法の開発	高柴 正悟	歯科(歯周科部門)	2,470,000	補	日本学術振興会
時空間的トランスクリプトーム解析・iPS干渉法を応用した歯の再生技術の開発	窪木 拓男	歯科(口腔インプラント科部門)	8,970,000	補	日本学術振興会
Mφオートファジー異常から見た歯周病やインプラント周囲炎の新規治療戦略	秋山 謙太郎	歯科(口腔インプラント科部門)	5,200,000	補	日本学術振興会
マイクロRNAを切り口とした歯周病・糖尿病によるアルツハイマー病への影響	江國 大輔	歯科(予防歯科部門)	4,030,000	補	日本学術振興会
生体ボリュームイメージ解析を用いた骨細胞のメカノセンサー機能獲得過程の解明	上岡 寛	矯正歯科	3,380,000	補	日本学術振興会
顎顔面領域先天性疾患の骨リモデリングを規定するエピゲノム制御機構の統合的理解	井澤 俊	矯正歯科	5,070,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膜タンパクをターゲットとした新たな口腔バイオフィルム制御法の確立	仲野 道代	小児歯科	4,810,000	補	日本学術振興会
細胞骨格ダイナミクスに基づく分子輸送制御システムの解明と革新的癌創薬への新展開	渡部 昌実	新医療研究開発センター	8,450,000	補	日本学術振興会
難治性血管炎の単一細胞解析による不均一性の解明とRNA誘導型組織修復法の開発	王 英正	新医療研究開発センター	6,500,000	補	日本学術振興会
細胞外小胞の口腔トロピズムを基軸とする侵襲性歯周炎の病態解明と診断への応用展開	山本 直史	卒後臨床研修センター	4,290,000	補	日本学術振興会
BMPとリズム調節因子による生殖内分泌調節メカニズムの探索と応用	大塚 文男	総合内科・総合診療科	1,820,000	補	日本学術振興会
医学における「ビジュアルアート教育」に関する調査研究	小比賀 美香子	総合内科・総合診療科	1,170,000	補	日本学術振興会
膵腺房導管異形成が誘発する膵癌遠隔転移のメカニズム解明	赤穂 宗一郎	総合内科・総合診療科	1,430,000	補	日本学術振興会
総合診療における高IgG4血症の臨床的および血清学的特徴の解析	長谷川 功	総合内科・総合診療科	260,000	補	日本学術振興会
内分泌視点から捉えたCOVID-19罹患後の倦怠感の機序とその解明	大塚 勇輝	総合内科・総合診療科	1,430,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎患者における直腸リンパ球の表面発現に基づいた治療効果予測法の確立	岩室 雅也	消化器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
膵オルガノイドモデル構築による高精度膵癌診断と治療法の開発	堤 康一郎	消化器内科	1,560,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤の有効性予測バイオマーカー開発ー血中自己抗体の可能性ー	松本 和幸	消化器内科	1,300,000	補	日本学術振興会
移植急性期のB細胞恒常性異常に基づく慢性GVHD発症予測と先制的治療法の開発	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	1,300,000	補	日本学術振興会
神経ペプチドNPYによる同種造血幹細胞移植後の非感染性呼吸器合併症治療の開発	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	1,170,000	補	日本学術振興会
新規ホウ素製剤による同種造血幹細胞移植後の閉塞性細気管支炎治療の開発	西森 久和	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	日本学術振興会
SHP2による薬剤toleranceを標的とした肺がん根治的治療の開発	市原 英基	呼吸器・アレルギー内科	1,430,000	補	日本学術振興会
Oct4陽性肺癌幹細胞マウスモデルの樹立と癌幹細胞を根絶する革新的治療法の開発	大橋 圭明	呼吸器・アレルギー内科	4,550,000	補	日本学術振興会
脂肪組織の機能不全を制御する新規蛋白の同定と病態生理的意義	江口 潤	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,300,000	補	日本学術振興会
N型カルシウムチャンネルが腹部大動脈瘤発症・進展に与える分子機構の解明	内田 治仁	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,040,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
IgA腎症における尿中糖鎖異常と病態の解明	大西 康博	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補	日本学術振興会
マイクロRNA解析による特発性ネフローゼ症候群の病態解明と新規治療薬の開発	辻 憲二	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,040,000	補	日本学術振興会
Txn1遺伝子ミスセンス変異による腎障害発症・進展機構の解明	竹内 英実	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアダイナミクスにおけるバスピンの意義と腎尿細管間質障害の制御	中司 敦子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補	日本学術振興会
細胞内蛋白の代謝異常に着目した骨粗鬆症発症機序の解明と新規治療ターゲットの開発	松本 佳則	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690,000	補	日本学術振興会
デジタル心電データを用いた不整脈ストーム化の予測と心臓突然死予防	森田 宏	循環器内科	1,040,000	補	日本学術振興会
大動脈解離におけるメカノバイオロジー機構の解明	三好 亨	循環器内科	650,000	補	日本学術振興会
心血管メカノセンサーTRPV2の低酸素誘発性肺高血圧症への関与解明と治療法開発	中村 一文	循環器内科	520,000	補	日本学術振興会
iPS細胞由来右室心筋を用いたBrugada症候群の病態解析	斎藤 幸弘	循環器内科	1,950,000	補	日本学術振興会
閉塞性動脈硬化症患者に対するレジスタンストレーニングを組み合わせた運動療法の開発	戸田 洋伸	循環器内科	910,000	補	日本学術振興会
安全かつ高効率誘導を実現する新世代型ダイレクトリプログラミング法の総合的開発	山下 徹	脳神経内科	1,170,000	補	日本学術振興会
インソール型圧力センサで計測した歩行パターンによるパーキンソン病重症度推定の研究	武本 麻美	脳神経内科	780,000	補	日本学術振興会
FUS相転移を制御するアルギニンメチル化の解明	森原 隆太	脳神経内科	2,080,000	補	日本学術振興会
ダイレクトリプログラミングによる脳梗塞モデルマウスの海馬神経細胞と認知機能の再生	福井 裕介	脳神経内科	2,990,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるRNA編集に基づく発症機序解明と発症予測バイオマーカーの探求	近藤 喜太	消化管外科	1,690,000	補	日本学術振興会
FAP陽性がん関連線維芽細胞の遺伝子プロファイリングと個別化治療に向けた探索的研究	賀島 肇	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
p53搭載腫瘍融解ウイルスの治療関連バイオマーカー探索と効果予測システムの構築	門脇 大輔	消化管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
胆管癌のmolecular subtype分類の構築	楳田 祐三	肝・胆・膵外科	1,820,000	補	日本学術振興会
CAFsとPD1/PD-L1系との関連に対する探索的研究	田邊 俊介	肝・胆・膵外科	1,170,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
予後不良18F-FDG-PET高値膵癌を標的としたホウ素中性子捕捉療法	金平 典之	肝・胆・膵外科	1,820,000	補	日本学術振興会
肺移植後早期グラフト機能不全に対する体内肺還流法による新規治療の開発	三好 健太郎	呼吸器外科	1,240,000	補	日本学術振興会
三次元培養により出現する腫瘍細胞の特性解析に基づいた新規肺がん治療標的の探索	山本 寛斉	呼吸器外科	1,040,000	補	日本学術振興会
肺がんの胸膜播種進展に関与するがん微小環境の病態解明	諏澤 憲	呼吸器外科	2,340,000	補	日本学術振興会
内在性レトロウイルスが抗腫瘍免疫応答に関与するメカニズムの解明	豊岡 伸一	呼吸器外科	3,510,000	補	日本学術振興会
心停止ドナーからの肺移植後虚血再灌流障害のトランスレーショナルリサーチと治療応用	岡崎 幹生	呼吸器外科	5,170,000	補	日本学術振興会
乳癌治療経験者を対象とし医療介入に対する経済毒性とQOLを検証する前向き観察研究	岩谷 胤生	乳腺・内分泌外科	1,170,000	補	日本学術振興会
耐性化機序に基づいたHER2陽性乳癌に対する治療戦略の開発	枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	780,000	補	日本学術振興会
gBRCA変異陽性トリプルネガティブ乳がんにおける腫瘍微小環境解析	高橋 侑子	乳腺・内分泌外科	2,340,000	補	日本学術振興会
腎虚血再灌流障害の新規治療法の研究	荒木 元朗	泌尿器科	910,000	補	日本学術振興会
スタチンのMMP阻害による好中球浸潤を介した腎保護の証明	吉永 香澄	泌尿器科	1,300,000	補	日本学術振興会
急性腎不全における好中球酸化ストレスが規定する接着分子制御機構の解明	丸山 雄樹	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
新機序にもとづくエフェクターT細胞活性化と革新的癌創薬への展開	定平 卓也	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
乳酸菌バイオフィファクトを用いた反復性/難治性膀胱炎の予防的治療の新戦略	岩田 健宏	泌尿器科	1,170,000	補	日本学術振興会
マラソン心事故予防に向けたAI解析による致死性不整脈の予知アルゴリズム構築	笠原 真悟	心臓血管外科	650,000	補	日本学術振興会
心虚血・再灌流時のセロトニン動態への薬理学的介入による心筋細胞傷害軽減	黒子 洋介	心臓血管外科	1,560,000	補	日本学術振興会
ファロー四徴症における右室流出路狭窄の病態発生機序の解明と予後予測マーカーの開発	小林 純子	心臓血管外科	1,560,000	補	日本学術振興会
チアノーゼ性先天性心疾患における腸内細菌叢変化と心血管イベント発症の関連性の検討	井上 善紀	心臓血管外科	1,430,000	補	日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来軟骨前駆細胞による新規骨欠損治療法の開発	依光 正則	整形外科	1,560,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
人工知能による物体検出を用いた原発性悪性腫瘍X線読影システムの開発と臨床応用	長谷井 嬢	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
emulsification(乳化)技術を用いた解剖体用脈管造影剤の開発	松本 洋	形成外科	1,170,000	補	日本学術振興会
筋骨積損失治療を指向したスキャホールドフリー・生体模倣立体筋組織体の創出	北口 陽平	形成外科	1,430,000	補	日本学術振興会
頭蓋形態に対する一般化容易な定量的解析法の確立と日本人小児における標準値の作成	妹尾 貴矢	形成外科	260,000	補	日本学術振興会
幹細胞産生因子を用い形成する脂肪移植至適環境の開発	太田 智之	形成外科	1,170,000	補	日本学術振興会
形成外科領域の患者QOL向上のために、新規PRO尺度導入とその臨床応用	雑賀 美帆	形成外科	2,080,000	補	日本学術振興会
乾癬病変部表皮角化細胞産生EBI3含有サイトカインに関する研究	森実 真	皮膚科	1,040,000	補	日本学術振興会
種痘様水疱症の早期治療介入マーカーと γ δ T細胞による重症化制御機構の検討	三宅 智子	皮膚科	390,000	補	日本学術振興会
網膜色素上皮細胞におけるカリウムチャンネルKir7.1の機能解明	森實 祐基	眼科	1,820,000	補	日本学術振興会
網膜前増殖組織の牽引力の差異を生む分子生物学的背景の解明	的場 亮	眼科	1,950,000	補	日本学術振興会
HPV関連中咽頭癌の集団ベーススクリーニング法の開発	安藤 瑞生	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補	日本学術振興会
内耳有毛細胞・支持細胞の免疫応答メカニズム-急性感音難聴の遺伝子医療にむけて-	前田 幸英	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,430,000	補	日本学術振興会
嗅細胞障害による異嗅症の分子学的治療戦略	村井 綾	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,170,000	補	日本学術振興会
新遺伝子導入法による遺伝性難聴治療モデルの開発-Dual Vector法の応用-	大道 亮太郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科	16,900,000	補	日本学術振興会
神経自己抗体が精神疾患の発症、再発に与える影響	高木 学	精神科神経科	1,560,000	補	日本学術振興会
腸内細菌叢のマルチオミクス解析による統合失調症の病態解明	岡久 祐子	精神科神経科	1,560,000	補	日本学術振興会
てんかんと認知症疾患の統合的研究	竹之下 慎太郎	精神科神経科	1,560,000	補	日本学術振興会
術後せん妄のサブタイプに着目した病態機序解明と新規バイオマーカーの確立	酒本 真次	精神科神経科	1,300,000	補	日本学術振興会
がん治療格差のある障碍を抱える人に、標準治療を届ける介入の実装を目指した基盤研究	藤原 雅樹	精神科神経科	1,690,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
慢性外傷性脳症モデル確立と経動脈的幹細胞移植:タウ蛋白と遺伝子発現の変化に迫る	安原 隆雄	脳神経外科	1,170,000	補	日本学術振興会
腫瘍幹細胞と分化型腫瘍細胞を同時標的とした膠芽腫治療戦略の開発	藤井 謙太郎	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
パーキンソン病の非運動症状に対する迷走神経刺激療法の可能性を探る	佐々木 達也	脳神経外科	1,430,000	補	日本学術振興会
神経膠腫のpassenger deletionに伴う構造的脆弱性を標的とした治療	大谷 理浩	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
うつ病モデルラットに対する脳・脊髄電気刺激療法	佐々田 晋	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
単細胞解析による免疫抑制骨髄系細胞分化機序の解明と、新規腫瘍溶解ウイルスの開発	大谷 理浩	脳神経外科	1,560,000	補	日本学術振興会
小児を対象にした新型コロナウイルス感染症の病態解明と後遺症抑止を目指した研究	塚原 宏一	小児科	2,600,000	補	日本学術振興会
マイクロRNA発現調節による川崎病の抗炎症治療戦略	平井 健太	小児科	1,560,000	補	日本学術振興会
乳幼児の認知機能発達を阻害する病態要因に関わる研究	小林 勝弘	小児神経科	260,000	補	日本学術振興会
ビタミンB6依存性てんかんの早期診断体制構築に向けたバイオマーカーの測定と探索	秋山 倫之	小児神経科	1,430,000	補	日本学術振興会
脳波のネットワーク解析による小児てんかん性脳症の病態の解明	柴田 敬	小児神経科	390,000	補	日本学術振興会
周産期からの先制医療にむけた代謝エピゲノムの解析とバイオマーカーの開発	増山 寿	産科婦人科	1,430,000	補	日本学術振興会
子宮体癌におけるRNA編集解明と新規治療戦略の探索	中村 圭一郎	産科婦人科	1,950,000	補	日本学術振興会
子宮平滑筋肉腫の新規革新的治療戦略の構築	松岡 敬典	産科婦人科	2,080,000	補	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた革命的な卵巣がん診断・治療法の開発	依田 尚之	産科婦人科	1,690,000	補	日本学術振興会
胎盤のプロレニン受容体を標的とした妊娠高血圧腎症の新たな治療戦略と病態の解明	光井 崇	産科婦人科	1,430,000	補	日本学術振興会
高齢女性の女性ホルモン投与下での筋負荷運動がもたらす下肢筋力の相乗効果	牧 尉太	産科婦人科	2,470,000	補	日本学術振興会
既承認器具の課題を克服した子宮頸がん組織内照射テンプレートの新規開発	吉尾 浩太郎	放射線科	910,000	補	日本学術振興会
新規光ファイバ焼灼医療機器の開発～経皮的針生検の合併症低減を目指して～	馬越 紀行	放射線科	1,040,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
アルギン酸ゲルを使用した新規血管内塞栓材料の開発～長期有効性および安全性の評価～	宇賀 麻由	放射線科	2,210,000	補	日本学術振興会
光ファイバ治療器の動脈塞栓術への応用-新規医療機器開発へ向けて-研究課題	生口俊浩	放射線科	390,000	補	日本学術振興会
肺癌に対するマイクロ波焼灼術の安全性と有効性の検討-単施設単群前向きオープン試験	富田晃司	放射線科	1,950,000	補	日本学術振興会
心停止後症候群に対する33℃と35℃の目標温度管理の神経学的予後に関する比較	内藤 宏道	救命救急科	650,000	補	日本学術振興会
水素吸入による異なるTLRシグナル伝達経路への効果とサイトカインストームの抑制	青景 聡之	救命救急科	1,560,000	補	日本学術振興会
新規肉腫モデルを用いた肉腫発生メカニズムの解明と治療標的分子同定の試み	上原 健敬	救命救急科	1,690,000	補	日本学術振興会
ラット小腸移植モデルを用いたビリベルジンの腸管内腔投与による臓器保護効果の検討	山本 浩継	救命救急科	1,300,000	補	日本学術振興会
マウスを用いた水素吸入療法による肺挫傷の新規治療法の開発	塚原 紘平	救命救急科	2,080,000	補	日本学術振興会
歯周病原菌による分泌小胞を介した新たな細胞障害メカニズムの解明	味野 範子	歯科(総合歯科部門)	2,860,000	補	日本学術振興会
プロトンポンプ阻害剤服用時に歯周病原細菌が腸内細菌叢へ及ぼす影響	平井 公人	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
天然由来レクチンを用いた唾液アミラーゼ糖結合性の探索と解明	伊東 有希	歯科(歯周科部門)	2,860,000	補	日本学術振興会
歯周病原細菌の感染とタンパク質シトルリン化を介する関節リウマチの病態解明	畑中 加珠	歯科(歯周科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
制御性T細胞の変化が関わるシェーグレン症候群特異的な新規非翻訳RNAの探索と解析	池田 淳史	歯科(歯周科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
真菌二次代謝産物Terreinが骨ホメオスタシスに及ぼす影響の免疫学的解析	坂井田 京佑	歯科(歯周科部門)	2,340,000	補	日本学術振興会
真菌二次代謝産物Terreinの薬剤関連性顎骨壊死病態に及ぼす影響の免疫学的検討	坂井田 京佑	歯科(歯周科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
HMGB1が破骨細胞の分化制御を介して歯周炎の進行に及ぼす免疫学的影響の解明	平井 杏奈	歯科(歯周科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
変形性関節症におけるエピジェネティクスを介したWISP1遺伝子発現制御機構の解明	前田 あずさ	歯科(口腔インプラント科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
機械学習を応用した咀嚼機能低下を精度高く検出する新規検査方法, 評価基準の開発	水口 真実	歯科(口腔インプラント科部門)	910,000	補	日本学術振興会
高齢者の低栄養における腸内細菌叢の役割解明と新規シンバイオティクス療法の開発	小山 絵理	歯科(口腔インプラント科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
IoTセンサーを利用した高齢者の口腔関連日常生活動作の測定と要介護後期介入転換	藤原 彩	歯科(口腔インプラント科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
時空間的トランスクリプトーム解析を応用した歯肉角化制御メカニズムの解明	縄稚 久美子	歯科(口腔インプラント科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
人工知能による深層学習を応用した四次元咀嚼・嚥下機能診断システムの構築	樋口 隆晴	歯科(口腔インプラント科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
コンタクトオステオジェネシスの概念に基づく口腔インプラント体表面改質材の開発	田仲 由希恵	歯科(口腔インプラント科部門)	1,950,000	補	日本学術振興会
炎症性シグナルによるMSCの免疫疲弊メカニズム解明と組織破壊抑制療法の開発	田頭 龍二	歯科(口腔インプラント科部門)	910,000	補	日本学術振興会
1細胞解析を応用した血管基底膜に起因した骨髄老化メカニズムの解明	納所 秋二	歯科(口腔インプラント科部門)	2,730,000	補	日本学術振興会
フレイル発症における腸内細菌叢の役割解明と積極的腸管保護療法の開発	大森 江	歯科(口腔インプラント科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
MSC/2型Mφ 1細胞間連携による炎症・再生連関促進の分子メカニズム解明	秋山 謙太郎	歯科(口腔インプラント科部門)	2,730,000	補	日本学術振興会
歯根膜刺激が減少すると海馬錐体細胞が減少するメカニズムの解明 青斑を介した伝導路	原 哲也	歯科(補綴歯科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
AIによる画像解析技術を応用した新規咀嚼能力評価システムの構築	杉本 皓	歯科(補綴歯科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
舌筋の加齢変化を客観的に評価する表面筋電図手法の創製	萬田 陽介	歯科(補綴歯科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
顎関節軟骨の老化を制御する新規メカニズムの解明	桑原 実穂	歯科(補綴歯科部門)	2,080,000	補	日本学術振興会
多官能アクリレート結合型長鎖シランカップリング剤の創出と応用	丸尾 幸憲	歯科(補綴歯科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
酸化ストレス可視化マウスにおける加齢を考慮した三次喫煙による全身と歯周病への影響	福原 大樹	歯科(予防歯科部門)	2,860,000	補	日本学術振興会
口腔機能向上が身体的・精神的フレイルに及ぼす有効性の検証:ランダム化比較試験	竹内 倫子	歯科(予防歯科部門)	780,000	補	日本学術振興会
摂食嚥下療方は頭頸部がんサバイバーの復職支援となりうるか?	横井 彩	歯科(予防歯科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢・遺伝子多型・細胞外小胞の違いが歯周病の進行におよぼす影響	澤田 ななみ	歯科(予防歯科部門)	2,210,000	補	日本学術振興会
食道がん化学療法による口腔粘膜炎症重症化に対する新規予測ストラテジーの確立	内田 悠理香	歯科(予防歯科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
光誘導RNA導入法を応用した骨再生のための新規ドラッグデリバリーシステムの開発	江國 大輔	歯科(予防歯科部門)	2,600,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
放射線性う蝕予防の新規アプローチ～ 歯面塗布型放射線防護剤の開発～	松崎 秀信	歯科(歯科放射線科部門)	910,000	補	日本学術振興会
味覚酸・CO2センサーの口腔外機能: 延髄呼吸中枢での役割	難波 友里	歯科(歯科放射線科部門)	1,950,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性 チャンネルサブタイプを介した抗炎症作用 機序の解明	宮脇 卓也	歯科(歯科麻酔科部門)	1,430,000	補	日本学術振興会
過分極活性化環状ヌクレオチド依存性 チャンネルは神経障害性疼痛にどのよう に関与するか	三宅 沙紀	歯科(歯科麻酔科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
障害者歯科への臨床応用を目的とした 経口用プロポフォール封入りポソーム 製剤の開発	西岡 由紀子	歯科(歯科麻酔科部門)	1,300,000	補	日本学術振興会
Hotz床治療による能動的顎誘導に向 けた有限要素解析の応用	飯田 征二	口腔外科(顎口腔再 建外科部門)	650,000	補	日本学術振興会
新規破骨細胞形成促進因子 Angiogeninが口腔癌骨浸潤に果たす 役割の解明	伊原木 聡一郎	口腔外科(口腔顎顔 面外科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
神経ペプチドCGRPは口腔癌の骨破壊 を制御する新たな標的となり得るか?	吉岡 徳枝	口腔外科(口腔顎顔 面外科部門)	1,560,000	補	日本学術振興会
人工知能を用いた口腔癌頸部リンパ節 転移の診断システムの開発	小畑 協一	口腔外科(口腔顎顔 面外科部門)	780,000	補	日本学術振興会
口腔癌の細胞外小胞を介したシスプラ チン耐性獲得機構の解明	小野 喜章	口腔外科(口腔顎顔 面外科部門)	1,820,000	補	日本学術振興会
シスプラチン耐性口腔癌に対する銅キ レート剤を用いた新規治療戦略の確立	竜門 省二	口腔外科(口腔顎顔 面外科部門)	1,170,000	補	日本学術振興会
長鎖非コードRNAによる骨細胞メカニ カルストレス応答制御機構の解明	石川 崇典	矯正歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
口腔機能低下症に迷走神経刺激は有効か: 脳腸連関によるニューロモジュ レーション解析	植田 紘貴	矯正歯科	1,690,000	補	日本学術振興会
後天的な顎骨形態決定の鍵となる遺伝 子の同定とそれに基づく不正咬合抑制 への新戦略	河野 加奈	矯正歯科	2,210,000	補	日本学術振興会
歯槽骨の大規模三次元イメージングに よる歯牙移動時の歯槽骨改造の解明	中條 真奈(橋本 真奈)	矯正歯科	910,000	補	日本学術振興会
喫煙によるダイオキシン受容体を介した 口腔組織修復の破綻メカニズム解明へ の挑戦	井澤 俊	矯正歯科	1,820,000	補	日本学術振興会
空間情報に紐づけられた遺伝子発現 解析から探る口蓋裂発生机序の解明 への挑戦	上岡 寛	矯正歯科	4,420,000	補	日本学術振興会
口蓋突起の癒合におけるFilamin Aを 介した上皮間葉転換の分子機序の解 明	早野 暁	矯正歯科	1,690,000	補	日本学術振興会
歯周病菌P. gulaeが保有する病原因子 の分子生物学的解析とその多様性の 解明	稲葉 裕明	小児歯科	1,040,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
口腔細菌叢のメタゲノム解析による非アルコール性脂肪肝炎発症機序解明と新規予防戦略	仲野 道代	小児歯科	2,340,000	補	日本学術振興会
歯科領域からの革新的治療法の開発を目指した口腔細菌に起因するIgA腎症の病態解明	仲 周平	小児歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
口腔内細菌叢の網羅的解析による口腔粘膜障害への臨床アプローチ	平野 慶子	小児歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
ABCトランスポーターを基軸としたS. mutansのシグナル伝達システムの解明	後藤 花奈	小児歯科	2,600,000	補	日本学術振興会
急性移植片対宿主病の重篤化抑制を目的としたテプレノン併用免疫抑制療法の開発	藤井 敬子	検査部	1,300,000	補	日本学術振興会
子宮頸癌放射線治療後の骨盤部脆弱性骨折予防のアプローチ:個別化医療に向けて	井原 弘貴	放射線部	1,040,000	補	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害モデルにおける筋膜の役割-新たな治療ターゲットの開発	松岡 義和	集中治療部	1,430,000	補	日本学術振興会
中心静脈圧の呼吸性変動は呼吸負荷の指標と成り得るか	岡原 修司	集中治療部	1,430,000	補	日本学術振興会
Force-Length Relationによる単離ヒト心筋細胞の機能評価	小松 弘明	循環器疾患集中治療部	1,300,000	補	日本学術振興会
特発性肺動脈性肺高血圧症由来肺動脈平滑筋細胞のエネルギー代謝の解明と治療薬の開発	赤木 達	循環器疾患集中治療部	1,430,000	補	日本学術振興会
急性白血病患者に対する安全な卵巣組織移植を目指した卵巣内微小残存病変評価法の開発	藤井 伸治	輸血部	1,170,000	補	日本学術振興会
慢性腎臓病に対するVasohibin-2ペプチドワクチン療法の有効性の検討	田邊 克幸	血液浄化療法部	1,430,000	補	日本学術振興会
正常・腫瘍オルガノイドモデルを活用した胆道癌の高精度早期診断法の開発	加藤 博也	光学医療診療部	1,430,000	補	日本学術振興会
術後絶食中のガム咀嚼は、食道がん手術後の予後を改善できるのか?	山中 玲子	医療支援歯科治療部	950,000	補	日本学術振興会
歯性感染由来の発熱性好中球減少症リスク判断指標の解明-乳がん補助化学療法を対象に	曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	1,040,000	補	日本学術振興会
消化器癌転移形成過程への好中球細胞外トラップの関与とその制御法の開発	香川 俊輔	腫瘍センター	1,690,000	補	日本学術振興会
ALK融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクチニブの早期耐性機序の解明と根治戦略の開発	榎本 剛	腫瘍センター	1,820,000	補	日本学術振興会
ゴナドトロピン分泌へのRNA結合タンパクZFP36の役割について	寺坂 友博	内分泌センター	1,040,000	補	日本学術振興会
抗炎症タンパク質HRGに着眼した肺虚血再灌流障害に対する新規治療法の開発	杉本 誠一郎	臓器移植医療センター	1,560,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ロボット支援下肝胆膵高難度手術におけるトレーニングプログラムの開発	高木 弘誠	臓器移植医療センター	1,700,000	補	日本学術振興会
Uncontrolled心停止ドナー肺の活用を可能とする新肺評価法の開発	田中 真	臓器移植医療センター	910,000	補	日本学術振興会
Uncontrolled 心停止ドナー肺の活用改善を可能とする新肺保護法の開発	田中 真	臓器移植医療センター	1,560,000	補	日本学術振興会
経胸壁心エコー図で奇異性脳塞栓症に関連する卵円孔開存を診断する研究	高谷 陽一	超音波診断センター	1,430,000	補	日本学術振興会
治療抵抗性前立腺癌における癌化-ステロイドシグナルaxisの機構解明	小林 泰之	低侵襲治療センター	1,300,000	補	日本学術振興会
膵がん微小環境を標的としたホウ素中性子捕捉療法の開発	寺石 文則	低侵襲治療センター	1,430,000	補	日本学術振興会
腫瘍融解アデノウイルスのエクソソームを介した全身性免疫賦活効果の検討	垣内 慶彦	低侵襲治療センター	1,950,000	補	日本学術振興会
HMGB1-HRGバランスに着目した川崎病新規治療薬の開発	馬場 健児	IVRセンター	1,690,000	補	日本学術振興会
グリオーマにおける免疫微小環境関連germlineバリエーションの解析	杉生 憲志	IVRセンター	1,690,000	補	日本学術振興会
性別違和を有する者の生きづらさの可視化:アンケート調査による治療評価法の確立	難波 祐三郎	ジェンダーセンター	780,000	補	日本学術振興会
プラーク内ゲノムDNAと歯周病との関連-ショットガンメタゲノムによる解析-	江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	780,000	補	日本学術振興会
腸内細菌叢の改善による反復性膀胱炎の新たな予防法と治療法の開発	石井 亜矢乃	総合患者支援センター	1,040,000	補	日本学術振興会
酸素付加DLCコーティングによる透析シャント用人工血管の開発	藤井 泰宏	新医療研究開発センター	1,820,000	補	日本学術振興会
先進医療Bの薬事承認申請活用に関する品質確保のための研究	櫻井 淳	新医療研究開発センター	970,000	補	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病におけるIL-18によるインフラマソーム活性化機構の解明と治療応用	宮本 聡	新医療研究開発センター	1,950,000	補	日本学術振興会
iPS肺がんオルガノイドモデルを用いた新規治療法の開発	枝園 和彦	新医療研究開発センター	1,040,000	補	日本学術振興会
QOLの解釈可能性を高めるMIDの設定とフィードバックのためのウェブシステム開発	宮脇 義亜	新医療研究開発センター	1,040,000	補	日本学術振興会
胆膵癌に対する抗PD-1モノクローナル抗体併用REIC遺伝子治療	内田 大輔	新医療研究開発センター	1,170,000	補	日本学術振興会
EGFR肺癌における第3世代EGFR-TKI耐性へのIL-6の関与と克服の検討	堀田 勝幸	新医療研究開発センター	910,000	補	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵臓癌に対する癌特異的p53遺伝子治療を阻害する代謝因子の探索と個別化治療の開発	田澤 大	新医療研究開発センター	1,430,000	補	日本学術振興会
高齢者の固定性インプラントを活用したシステム非依存的補綴治療介入の有効性の検討	黒崎 陽子	新医療研究開発センター	1,560,000	補	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球に基づくがん免疫療法(抗CTLA-4抗体)のバイオマーカー開発	二宮 貴一郎	ゲノム医療総合推進センター	2,600,000	補	日本学術振興会
腫瘍浸潤リンパ球に基づくがん免疫療法(抗CTLA-4抗体)のバイオマーカー開発	二宮 貴一郎	ゲノム医療総合推進センター	2,600,000	補	日本学術振興会
4Dシングルセル・マルチオミクス解析による悪性リンパ腫の免疫療法耐性機序の解明	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	3,900,000	補	日本学術振興会
造血管腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	500,000	補	日本学術振興会
TNBCに対するL-アスパラギナーゼ特定時刻投与による抗腫瘍効果の検討	白水 翔也	薬剤部	480,000	補	日本学術振興会
重合開始剤による乳がん細胞増殖促進メカニズムの解明	河崎 陽一	薬剤部	910,000	補	日本学術振興会
がん免疫療法関連心筋炎の解析に適した実験的発症モデルの開発	濱野 裕章	薬剤部	1,820,000	補	日本学術振興会
NTRK融合遺伝子標的抗がん剤エストレクチニブ誘発精神障害に対する抑肝散の効果	岩田直大	薬剤部	480,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤による大腸炎の予防法開発	蔵田 靖子	薬剤部	450,000	補	日本学術振興会
マルチオミクス解析による移植後免疫再構築の解明とGVHDを予測する分子遺伝子学バイオマーカーの開発研究	前田 嘉信	血液・腫瘍内科	9,100,000	委	日本医療研究開発機構
AIによる骨腫瘍X線画像読影システムの開発と臨床研究	尾崎 敏文	整形外科	7,176,000	委	日本医療研究開発機構
大脳脳梗塞の予後を反対側小脳皮質硬膜外電気刺激は改善できるか？	平松匡文	脳神経外科	500,000	補	公益財団法人 山陽放送学術文化・ス
神経膠腫の構造的脆弱性とメチオニン代謝に着目した新規免疫療法の開発	大谷理浩	脳神経外科	1,000,000	補	公益財団法人 SGH 財団
一細胞時空間解析による神経膠腫の構造的脆弱性を標的とした新規免疫療法の開発	大谷理浩	脳神経外科	2,000,000	補	公益財団法人 高松宮妃癌研究基金
機械学習を用いた腫瘍代謝産物の可視化による脳腫瘍の構造的脆弱性の検出と治療応用	大谷理浩	脳神経外科	500,000	補	公益財団法人コニカミノルタ科学技術振
皮質高周波振動の信号特徴とてんかん原性の関係の多変量解析による究明	柴田 敬	小児神経科	1,600,000	補	公益財団法人 てんかん治療研究振興
救急救命士の業務拡大に向けたドクターカーからの医療情報伝送・統括システムの実証事業	牧 尉太	産科婦人科	48,985,640	委	内閣府

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業補助金	小川千加子	産科婦人科	5,529,000	補	厚労省
がん化学療法に伴う口腔粘膜炎発症患者に対する新規口腔粘膜保護法の有効性および安全性を検討する臨床試験の実施	大森 一弘	歯科(歯周科部門)	16,897,400	委	日本医療研究開発機構
頭蓋縫合早期癒合症モデルでの単細胞解析の応用による分子機序の解明	天野克比古	口腔外科(顎口腔再建外科部門)	1,500,000	補	公益財団法人 中富健康科学振興財団
聴覚障害者の災害時・緊急時における緊急通知音振動変換装置および情報共有システムの有用性の検討	片岡 祐子	聴覚支援センター	13,980,000	委	日本医療研究開発機構
当事者ニーズに基づいた聴覚情報処置障害診断と支援の手引きの開発	片岡 祐子	聴覚支援センター	689,000	委	日本医療研究開発機構
ハイブリッド遺伝子変異がもたらすリンパ腫時空間的不均一性を克服する新たな治療法開発	遠西 大輔	ゲノム医療総合推進センター	13,000,000	委	日本医療研究開発機構
がん免疫療法関連心筋炎の治療をも可能にするデータベース解析およびAI技術を融合した創薬研究	座間味 義人	薬剤部	2,000,000	補	公益財団法人 武田科学振興財団

計 233件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Koichiro Yamamoto, Yasuhiro Nakano, Kazuki Tokumasu, et al.	総合内科・総合診療科	Relationship between patients' characteristics and efficacy of calcimimetics for primary hyperparathyroidism in the elderly	Clin Case Rep. 2022 Apr 8;10(4):e05713.	Case report
2	Kazuki Tokumasu, Mikako Obika, Haruo Obara, et al.	総合内科・総合診療科	Processes of increasing medical residents' intrinsic motivation: a qualitative study	Int J Med Educ. 2022 Apr 29;13:115-123.	Original Article
3	Naruhiko Sunada, Hiroyuki Honda, Yasuhiro Nakano, et al.	総合内科・総合診療科	Hormonal trends in patients suffering from long COVID symptoms	Endocr J. 2022 Oct 28;69(10):1173-1181.	Original Article
4	Kazuki Tokumasu, Keigo Ueda, Hiroyuki Honda, et al.	総合内科・総合診療科	Application of Kampo Medicines for Treatment of General Fatigue Due to Long COVID	Medicina (Kaunas). 2022 May 28;58(6):730.	Original Article
5	Kazuki Tokumasu, Hiroyuki Honda, Naruhiko Sunada, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical Characteristics of Myalgic Encephalomyelitis/Chronic Fatigue Syndrome (ME/CFS) Diagnosed in Patients with Long COVID	Medicina (Kaunas). 2022 Jun 25;58(7):850.	Original Article
6	Yoshiaki Soejima, Nahoko Iwata, Nanako Nakayama, et al.	総合内科・総合診療科	Mutual Effects of Orexin and Bone Morphogenetic Proteins on Gonadotropin Expression by Mouse Gonadotrope Cells	Int J Mol Sci. 2022 Aug 29;23(17):9782.	Original Article
7	Yuki Otsuka, Fumio Otsuka	総合内科・総合診療科	Possibility of endocrine dysfunction in post COVID-19 condition	Endocr J. 2022 Nov 28;69(11):1357.	Original Article
8	Yasuhiro Nakano, Yuki Otsuka, Hiroyuki Honda, et al.	総合内科・総合診療科	Transitional changes of fatigue-related symptoms due to long COVID: a single-center retrospective observational study in Japan.	Medicina (Kaunas). 2022 Oct 5;58(10):1393.	Original Article
9	Tomoko Miyoshi, Hiromi Ida, Yoshito Nishimura, et al.	総合内科・総合診療科	Effects of Yoga and Mindfulness Programs on Self-Compassion in Medical Professionals during the COVID-19 Pandemic: An Intervention Study.	Int J Environ Res Public Health. 2022 Sep 30;19(19):12523.	Original Article
10	Yuki Otsuka, Hideharu Hagiya, Shinnosuke Fukushima, et al.	総合内科・総合診療科	Trends in the Incidence of Japanese Spotted Fever in Japan: A Nationwide Two Decade Observational Study from 001-00	Am J Trop Med Hyg. 2023 Feb 6;108(4):701-704.	Original Article
11	Naruhiko Sunada, Yasuhiro Nakano, Yuki Otsuka, et al.	総合内科・総合診療科	Characteristics of sleep disturbance in patients with long COVID: a retrospective observational study in Japan.	J Clin Med. 2022 Dec 9;11(24):7332.	Original Article
12	Yuki Otsuka, Hideharu Hagiya, Misa Takahashi, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical characteristics of Campylobacter bacteremia: a multicenter retrospective study.	Sci Rep. 2023 Jan 12;13(1):647.	Original Article
13	Kazuki Tokumasu, Yoshito Nishimura, Yoko Sakamoto, et al.	総合内科・総合診療科	Differences in stress perception of medical students depending on in-person communication and online communication during the COVID-19 pandemic: A Japanese cross-sectional survey.	Int J Environ Res Public Health. 2023 Jan 15;20(2):1579.	Original Article
14	Koichiro Yamamoto, Yasuhiro Nakano, Nahoko Iwata, et al.	総合内科・総合診療科	Oxytocin enhances progesterone production with upregulation of BMP-15 activity by granulosa cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2023 Feb 26;646:103-109.	Original Article
15	Yasue Sakurada, Yuki Otsuka, Kazuki Tokumasu, et al.	総合内科・総合診療科	Trends in long COVID symptoms in Japanese teenage patients.	Medicina (Kaunas). 2023 Jan 29;59(2):261.	Original Article
16	Yui Matsuda, Kazuki Tokumasu, Yuki Otsuka, et al.	総合内科・総合診療科	Symptomatic characteristics of hypozincemia detected in long COVID patients.	J Clin Med. 2023 Mar 6;12(5):2062.	Original Article
17	Naruhiko Sunada, Yasuhisa Hanayama, Koichiro Yamamoto, et al.	総合内科・総合診療科	Clinical utility of urinary levels of catecholamines and their fraction ratios related to heart rate and thyroid function	Endocr J. 2022 Apr 28;69(4):417-425.	Original Article
18	Kosuke Oka, Yume Takagi, Hideharu Hagiya, et al.	総合内科・総合診療科	Cat scratch disease without a history of cat exposure	Clin Case Rep. 2022 Apr 14;10(4):e04816.	Case report

19	Koichiro Yamamoto, Yasuhiro Nakano, Kou Hasegawa, et al.	総合内科・総合診療科	Radiologic features of Erdheim-Chester disease	Rheumatology (Oxford). 2022 Jul 6;61(7):e209.	Case report
20	Koichiro Yamamoto, Fumio Otsuka	総合内科・総合診療科	Half-and-Half Toenails	Mayo Clin Proc. 2022 Apr;97(4):652.	Case report
21	Koichiro Yamamoto, Hiroyuki Honda, Fumio Otsuka	総合内科・総合診療科	Adrenal and Testicular Tumor Formation Due to 21-Hydroxylase Deficiency.	Am J Med. 2022 May;135(5):e106.	Case report
22	Yoshiaki Soejima, Yuki Otsuka, Kazuki Tokumasu, et al.	総合内科・総合診療科	Late-Onset Hypogonadism in a Male Patient with Long COVID Diagnosed by Exclusion of ME/CFS	Medicina (Kaunas). 2022 Apr 13;58(4):536.	Case report
23	Koichiro Yamamoto, Kosuke Oka, Kou Hasegawa, et al.	総合内科・総合診療科	Eyelid edema due to Cushing's syndrome	Clin Case Rep. 2022 Jun 2;10(6):e05940.	Case report
24	Hiroyuki Honda, Shuichi Tanaka, Hideharu Hagiya, et al.	総合内科・総合診療科	Postprandial Reactive Hypoglycemia Detected with Premature Ventricular Contraction	QJM. 2022 Oct 25;115(10):675-676.	Case report
25	Shinnosuke Fukushima, Koji Fujita, Hideharu Hagiya, et al.	総合内科・総合診療科	Right-sided infective endocarditis with odontogenic infections	QJM. 2022 Nov 14;115(11):753.	Case report
26	Koichiro Yamamoto, Daisuke Omura, Keiji Soga, et al.	総合内科・総合診療科	Letter to the Editor: Whole Body, Whole Life, Whole Family: Patients' Perspectives on X-Linked Hypophosphatemia.	J Endocr Soc. 2022 Oct 27;7(1):bvac162.	Case report
27	Koichiro Yamamoto, Hiroyuki Honda, Hiroko Ogawa, et al.	総合内科・総合診療科	Key signs indicating mesenteric panniculitis.	Clin Case Rep. 2022 Dec 8;10(12):e6654.	Case report
28	Koichiro Yamamoto, Yasuhiro Nakano, Fumio Otsuka	総合内科・総合診療科	Isolated unilateral absence of adult pulmonary artery.	Clin Case Rep. 2022 Nov 27;10(11):e6652.	Case report
29	Kosuke Oka, Wataru Ando, Hideharu Hagiya, et al.	総合内科・総合診療科	Rhinogenic optic neuropathy with hemianopia caused by ethmoidal sinus mucocele.	Clin Case Rep. 2022 Dec 5;10(12):e6696.	Case report
30	Shinnosuke Fukushima, Hideharu Hagiya, Yukichika Yamamoto, et al.	総合内科・総合診療科	Cryptococcal meningitis developing in a patient with neurosarcoidosis.	Intern Med. 2022 Dec 28.	Case report
31	Shinnosuke Fukushima, Kazuki Ocho, Koji Fujita, et al.	総合内科・総合診療科	Tuberculous meningitis.	Clin Case Rep. 2023 Jan 16;11(1):e6865.	Case report
32	Shinnosuke Fukushima, Koichiro Yamamoto, Yasuhiro Nakano, et al.	総合内科・総合診療科	Biofilm-associated candidal thrombophlebitis.	IDCases. 2023 Feb 28;31:e01733.	Case report
33	Hiroyuki Honda, Hiroyuki Sakae, Hideharu Hagiya, et al.	総合内科・総合診療科	Foramen of Winslow Hernia Ameliorating Conservatively.	Intern Med. 2022 Sep 15;61(18):2817-2818.	Case report
34	Yamamoto A, Kambara Y, Fujiwara H.	血液・腫瘍内科	Impact of oral microbiota on pathophysiology of GVHD.	Front Immunol. 2023 Mar;14:1132983	Review
35	Seike K, Kiledal A, Fujiwara H, et al.	血液・腫瘍内科	Ambient oxygen levels regulate intestinal dysbiosis and GVHD severity after allogeneic stem cell transplantation.	Immunity. 2023 Feb;56:353-368	Original Article
36	Ennishi D.	血液・腫瘍内科	Biological and clinical significance of epigenetic alterations in B-cell lymphomas.	Int J Hematol. 2022 Dec;116:821-827	Review
37	Torres LS, Asada N, Weiss MJ, et al.	血液・腫瘍内科	Recent advances in "sickle and niche" research-Tribute to Dr. Paul S Trenette.	Stem Cell Reports. 2022 Jul 12;17(7):1509-1535.	Review
38	Makimoto G, Shimonishi A, Ohashi K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Successful and Prompt Treatment with Tepotinib for Lung Adenocarcinoma Harboring MET Exon 14 Skipping Mutation Combined with Lung Abscess Formation: A Case Report	Case reports in oncology 2022 May;15(2):494-498.	Case report
39	Makimoto G, Misawa M, Maeda Y, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Dasatinib-induced massive left chylothorax in a patient with chronic myeloid leukemia	Respiratory medicine case reports 2022 May;37:101662.	Case report

40	Hotta K, Suzuki E, Ichihara E, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Three doses of mRNA COVID-19 vaccine protects from SARS-CoV-2 infections in Japan	Journal of internal medicine 2022 Oct;292(4):687-689.	Original Article
41	Higo H, Ichikawa H, Nakamura N, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Intravenous immunoglobulin for acute exacerbation of fibrotic idiopathic interstitial pneumonias	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 2022 Dec;19:39(4):e2022038.	Original Article
42	Tsuji M, Kawai Y, Miyoshi T, et al.	循環器内科	High platelet reactivity is a predictor of left ventricular remodelling in patients with acute myocardial infarction.	ESC Heart Fail. 2022 Oct;9(5):3565-3574	Original Article
43	Nakayama R, Takaya Y, Nakamura K, et al.	循環器内科	Assessment of congestion and clinical outcomes in patients with chronic heart failure using shear wave elasticity.	ESC Heart Fail. 2022 Apr;9(2):1279-1286	Original Article
44	Nakashima M, Tanakaya M, Miyoshi T, et al.	循環器内科	The Fibrosis-4 Index Predicts Cardiovascular Prognosis in Patients With Severe Isolated Tricuspid Regurgitation.	Circ J. 2022 Oct 25;86(11):1777-1784	Original Article
45	Takaya Y, Nakayama R, Yokohama F, et al.	循環器内科	Left atrial appendage morphology with the progression of atrial fibrillation.	PLoS One. 2022 Nov 30;17(11):e0278172	Original Article
46	Nakashima M, Miki T, Takaya Y, et al.	循環器内科	Pulmonary arteriovenous fistula in a rare location: The importance of excluding patent foramen ovale.	J Cardiol Cases. 2022 Dec 7;27(3):124-127	Case report
47	Nishihara T, Miyoshi T, Ichikawa K, et al.	循環器内科	Association of Oxidized Low-Density Lipoprotein in Nonalcoholic Fatty Liver Disease with High-Risk Plaque on Coronary Computed Tomography Angiography: A Matched Case-Control Study.	J Clin Med. 2022 May 17;11(10):2838	Original Article
48	Sasaki R, Yunoki T, Nakano Y, et al.	脳神経内科	A young female case of asymptomatic immune-mediated necrotizing myopathy: a potential diagnostic option of antibody testing for rhabdomyolysis.	Neuromuscul Disord. 2023 Feb;33:183-186	Case report
49	Sasaki R, Yunoki T, Nakano Y, et al.	脳神経内科	Actual Telemedicine Needs of Japanese Patients with Neurological Disorders in the COVID-19 Pandemic.	Intern Med.2023 Feb;62:365-371	Original Article
50	Morihara R, Yamashita T, Osakada Y, et al.	脳神経内科	Efficacy and safety of spot heating and ultrasound irradiation on in vitro and in vivo thrombolysis models.	J Cereb Blood Flow Metab. 2022 Jul;42:1322-1334	Original Article
51	Teraishi F, Jikuhara A, Ogawa R, et al.	低侵襲治療センター	Descending colon cancer coincident with schistosoma japonicum in an 89-year-old male	Acta Med Okayama.2022 Jun;76(3):355-358	Case report
52	Takagi K, Yoshida R, Umeda Y, et al.	臓器移植医療センター	Division of the pancreas at the right side of the superior mesenteric vein in robotic distal pancreatectomy: The splenic vessel-first approach	Asian J Surg.2022 Aug;45(8):1591-1593	Case report
53	Tazawa H, Shigeyasu K, Noma K, et al.	新医療研究開発センター	Tumor-targeted fluorescence labeling systems for cancer diagnosis and treatment	Cancer Sci.2022 Jun;113(6):1919-1929	Review
54	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Prognostic Value of the Regional Lymph Node Station in Pancreatic Neuroendocrine Tumor	Anticancer Res.2022 May;42(5):2797-2801	Original Article
55	Kikuchi S, Takata N, Kuroda S, et al.	消化管外科	Impact of Amino Acids Nutrition Following Gastrectomy in Gastric Cancer Patients	Anticancer Res.2022 Jul;42(7):3637-3643	Original Article
56	Teraishi F, Shigeyasu K, Kagawa S, et al.	低侵襲治療センター	Anorectal leiomyoma with GLUT1 overexpression mimicking malignancy on FDG-PET/CT	J Surg Case Rep.2022 May 24;2022(5):rjac101	Case report
57	Fuji T, Umeda Y, Takagi K, et al.	臓器移植医療センター	Optimal surveillance of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas focusing on remnant pancreas recurrence after surgical resection	BMC Cancer.2022 May 29;22(1):588	Original Article
58	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	The Gastrohepatic Ligament Approach in Robotic Spleen-Preserving Distal Pancreatectomy with Resection of the Splenic Vessels: The Superior Window Approach in the Warsaw Technique	J Gastrointest Surg.2022 Jun;26(6):1342-1344	Case report
59	Hashimoto M, Shirakawa Y, Tanabe S, et al.	消化管外科	Verrucous carcinoma of the esophagus with complete response after chemoradiotherapy	Surg Case Rep.2022 Jul 4;8(1):128	Case report
60	Takagi K, Kumano K, Umeda Y, et al.	臓器移植医療センター	Surgical Strategies to Approaching the Splenic Artery in Robotic Distal Pancreatectomy	Anticancer Res.2022 Sep;42(9):4471-4476	Original Article

61	Tanimoto T, Noda T, Imaji R, et al.	小児外科	A case of esophageal atresia with the bronchial-like lower esophagus which originates from the left lower lobe bronchus	Surg Case Rep.2022 Aug 15;8(1):156	Case report
62	Takagi K, Murotani K, Kamoshita S, et al.	臓器移植医療センター	Dose-Dependent Effects of Amino Acids on Clinical Outcomes in Adult Medical Inpatients Receiving Only Parenteral Nutrition: A Retrospective Cohort Study Using a Japanese Medical Claims Database	Nutrients.2022 Aug 27;14(17):3541	Original Article
63	Kakiuchi Y, Kuroda S, Kikuchi S, et al.	低侵襲治療センター	Prognostic risk factors for postoperative long-term outcomes in elderly stage IA gastric cancer patients	J Gastrointest Oncol.2022 Oct;13(5):2178-2185	Original Article
64	Takagi K, Yoshida R, Umeda Y, et al.	臓器移植医療センター	Robotic Spleen-Preserving Distal Pancreatectomy with Preservation of Splenic Vessels Using the Gastrohepatic Ligament Approach: The Superior Window Approach in the Kimura Technique	Dig Surg.2022;39(4):137-140 Epub 2022 Sep 28.	Case report
65	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Current status and future perspectives of minimally invasive and open radical antegrade modular pancreatosplenectomy for pancreatic ductal adenocarcinoma: a review	Laparosc Surg.2022 Oct;6:39	Review
66	Teraishi F, Jikuhara A, Ogawa R, et al.	低侵襲治療センター	Surgical Resection for Local and Lateral Lymph Node Recurrence of MSI-high Cecal Cancer with the BRAF V600E Mutation	Acta Med Okayama.2022 Oct;76(5):605-608	Case report
67	Takagi K, Murotani K, Kamoshita S, et al.	臓器移植医療センター	Clinical impact of lipid injectable emulsion in internal medicine inpatients exclusively receiving parenteral nutrition: a propensity score matching analysis from a Japanese medical claims database	BMC Med.2022 Oct 27;20(1):371	Original Article
68	Umeda Y, Takagi K, Matusda T, et al.	肝胆膵外科	Clinical implications and optimal extent of lymphadenectomy for intrahepatic cholangiocarcinoma: A multicenter analysis of the therapeutic index	Ann Gastroenterol Surg.2022 Nov 27;7(3):512-522	Original Article
69	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Surgical Strategies to Dissect around the Superior Mesenteric Artery in Robotic Pancreatoduodenectomy	J Clin Med.2022 Nov 30;11(23):7112	Original Article
70	Kakiuchi Y, Kikuchi S, Kuroda S, et al.	低侵襲治療センター	Involvement in the tumor-infiltrating CD8+ T cell expression by the initial disease of remnant gastric cancer	World J Surg Oncol.2022 Nov 30;20(1):374	Original Article
71	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Role of Surgery for Pancreatic Ductal Adenocarcinoma in the Era of Multidisciplinary Treatment	J Clin Med.2023 Jan 6;12(2):465	Review
72	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Surgical Techniques of Gastrojejunostomy in Robotic Pancreatoduodenectomy: Robot-Sewn versus Stapled Gastrojejunostomy Anastomosis	J Clin Med.2023 Jan 16;12(2):732	Original Article
73	Kakiuchi Y, Kuroda S, Kikuchi S, et al.	低侵襲治療センター	Removing the Esophageal Stump During Reconstruction for Esophagojejunostomy in Total Gastrectomy for Gastric Cancer: the Modified Overlap Method	J Gastrointest Surg.2023 Mar;27(3):643-645	Original Article
74	Takahashi T, Kakiuchi Y, Kikuch S, et al.	消化管外科	A Case Report of Non-typical Annular Pancreas Diagnosed during Laparoscopic Gastric Surgery	Acta Med Okayama.2023 Feb;77(1):91-95	Case report
75	Takagi K, Umeda Y, Yoshida R, et al.	臓器移植医療センター	Role of the Pfannenstiel Incision in Robotic Hepato-Pancreato-Biliary Surgery	J Clin Med.2023 Mar 2;12(5):1971	Original Article
76	Shien T.	乳腺内分泌外科	Who can get the survival benefit of primary tumor resection for de novo stage IV breast cancer?	Ann Palliat Med.2022 Jun;11(6):2184-2185	Original Article
77	Tanaka S, Lucas Hoyos Mejía, Alejandra Romero Román, et al.	臓器移植医療センター	Evaluation of Uncontrolled Donation After Circulatory Death Lungs by Conventional In Situ Effluent Gas Analysis and Ex Vivo Lung Perfusion.	Archivos de Bronconeumología.2022 Jul;58(7):569-571	Original Article
78	Okazaki M, Shien K, Suzawa K, et al.	呼吸器外科	Robotic Mediastinal Tumor Resections: Position and Port Placement.	J Pers Med.2022 Jul;12(8):1195	Original Article
79	Sugimoto S, Date H, Miyoshi K, et al.	臓器移植医療センター	Long-term outcomes of living-donor lobar lung transplantation.	J Thorac Cardiovasc Surg.2022 Aug;164(2):440-448	Original Article
80	Okazaki M, Suzawa K, Shien K, et al.	呼吸器外科	Surgical outcome of ipsilateral anatomical resection for lung cancer after pulmonary lobectomy.	Eur J Cardiothorac Surg.2023 Mar;63(3):ezad048	Original Article
81	Katayama S., Mori K., Pradere B., et al.	泌尿器科	Influence of steep trendelenburg position on postoperative complications: a systematic review and meta-analysis	J Robot Surg. 2022 Dec;16(6):1233-1247.	Review

82	Watanabe T., Matsushima M., Yoshinaga K., et al.	泌尿器科	Staphylococcus saprophyticus-infected urinary stone	QJM.2023 Feb 14;116(1):74-75.	Others
83	Katayama S., Mori K., Schuettfort VM., et al.	泌尿器科	Accuracy and clinical utility of a tumor grade-and stage-based predictive model in localized upper tract urothelial carcinoma	Eur Urol Focus.2022 May;8(3):761-768.	Review
84	Kawada T., Yanagisawa T., Rajwa P., et al.	泌尿器科	Diagnostic performance of Prostate-specific membrane antigen positron emission tomography-targeted biopsy for detection of clinically significant prostate cancer: A systematic review and meta-analysis	Eur Urol Oncol.2022 Aug;5(4):390-400.	Review
85	Edamura K., Sadahira T., Hara J., et al.	泌尿器科	Feasibility of robot-assisted radical cystectomy in a patient with an ectopic kidney: A case report	Med Int (Lond) . 2022 Nov 29;3(1):1.	Case report
86	Watanabe T., Sadahira T., Sekito T., et al.	泌尿器科	Simplified PADUA REnal (SPARE) nephrometry system can describe the surgical difficulty of renal masses with high accuracy even without 3D renal models	Urology.2022 Dec;170:132-138.	Others
87	Katayama S., Mori K., Pradere B., et al.	泌尿器科	Comparison of short-term and long-term neoadjuvant hormone therapy prior to radical prostatectomy: a systematic review and meta-analysis	Scand J Urol.Scand J Urol . 2022 Apr;56(2):85-93.	Review
88	Katayama S., Schuettfort VM., Pradere B., et al.	泌尿器科	Prognostic value of hepatocyte growth factor for muscle-invasive bladder cancer	J Cancer Res Clin Oncol.2022 Nov;148(11):3091-3102.	Original Article
89	Tominaga Y., Fujii M., Sadahira T., et al.	泌尿器科	Bladder tuberculosis with ureteral strictures after bacillus calmette-guerin therapy for urinary bladder cancer: A case report.	Mol Clin Oncol . 2022 Dec 20;18(2):7	Original Article
90	Kotani Y, Kobayashi Y, Kadowaki S, et al.	心臓血管外科	Impact of pulmonary artery coarctation on pulmonary artery growth and definitive repair following modified Blalock-Taussig shunt	J Thorac Cardiovasc Surg. 2022. May.163(5):1618-1626	Original Article
91	Suzuki H, Kuroko Y, Kotani Y, Sakoda N, Kasahara S	心臓血管外科	A Ruptured Coronary Artery Aneurysm Secondary to Kawasaki Disease	JACC.2022.Jul.4(13):790-793	Case report
92	Suzuki H, Kisamori E, Kotani Y, et al.	心臓血管外科	A highly calcified conduit compressing the heart	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2022.Jul.30(6):741-742	Others
93	Suzuki H, Kuroko Y, Kotani Y, et al.	心臓血管外科	Physiologic biventricular repair in a patient with unrepaired adult congenital heart disease with severe cyanosis	JTCVS Tech.2022.Aug.15:220-223	Case report
94	Toshiyuki W, Hiroshi M, Ryuichi Y, et al	形成外科	Pectoralis Major and Serratus Anterior Muscle Flap for Diaphragmatic Reconstruction	The Annals of thoracic Surgery, 2022 Jul, Vol.114 No.1;51-54	Case report
95	Tomoyuki O, Ryosuke I, Yohei K, et al	形成外科	Fabrication of scaffold-free mesenchyme tissue bands by cell self-aggregation technique for potential use in tissue regeneration	Biomedical Material, 2022 Nov, Vol.17, No.6, 1-9	Original Article
96	Tachibana K, Goto K, Kukita Y, et al.	皮膚科	BRAF Immunoreexpression Can Be Intralesionally Heterogeneous but BRAF V600E Mutation Status Is Intralesionally Homogeneous and Interlesionally Concordant in Melanoma: A Study of 140 Lesions From 98 Patients.	Am J Dermatopathol. 2022 Jul; 44: 478-487	Original Article
97	Takigawa M, Yamasaki O, Nomura H, et al.	皮膚科	Probability scoring system of intravascular large B-cell lymphoma for the application of random skin biopsy: A retrospective cohort study.	JAAD Int. 2022 Dec; 9: 146-152	Original Article
98	Tachibana K, Kawakami Y, Tokuda M, et al.	皮膚科	Flare-up of generalized pustular psoriasis following Pfizer-BioNTech BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccine: Two cases without mutations of IL36RN and CARD14 genes.	J Dermatol. 2022 Oct; 49: e393-e394	Case report
99	Kanzaki Y, Doi S, Matoba R, et al	眼科	Objective and quantitative estimation of the optimal timing for epiretinal membrane surgery on the basis of metamorphopsia.	Retina. 2022 Apr;42:704-711	Original Article
100	Kanzaki Y, Fujita H, Sato K, et al	眼科	Protrusion of KCNJ13 gene knockout retinal pigment epithelium due to oxidative stress-induced cell death.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2022 Nov (オンライン)	Original Article
101	Maeda Y, Takao S, Abe-Fujisawa I, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Static posturographic balance in neurotologic patients may be associated with middle-high-frequency hearing levels during ageing process	Acta Otolaryngol. 2022 Mar-Apr;142(3-4):280-284	Original Article
102	Maeda Y, Takao S, Abe-Fujisawa I, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Relationship between spontaneous nystagmus and video Head Impulse Test findings among patients with chronic neurotologic conditions	J Clin Neurosci. 2022 May;99:244-247.	Original Article

103	Makihara S, Kariya S, Miyamoto S, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Serum 1,25-dihydroxyvitamin D3 Levels in Patients with Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis	Acta Med Okayama. 2022 Oct;76:527-533.	Original Article
104	Makihara S, Kariya S, Omichi R, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Subclinical obstructive lung function changes in patients with sinus fungus ball	Allergol Int. 2022 Oct;71(4):539-541.	Original Article
105	Oshima Y, Matsumoto Y, Terada S, et al.	精神科神経科	Prevalence of Gender Dysphoria by Gender and Age in Japan: A Population-Based Internet Survey Using the Utrecht Gender Dysphoria Scale.	The Journal of Sexual Medicine 2022 Jul 19 (7)	Original Article
106	Yamada Y, Fujiwara M, Shimazu T, et al.	精神科神経科	Issues of cancer care in people with mental disorders as perceived by cancer care providers: A quantitative questionnaire survey.	Psycho-oncology. 2022 Sep 31(9)	Original Article
107	Yamada Y, Fujiwara M, Shimazu T, et al.	精神科神経科	Patients' acceptability and implementation outcomes of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia: a qualitative secondary analysis of a mixed-method randomised clinical trial	BMJ Open. 2022 Jun 14;12(6)	Original Article
108	Yabuno S, Sasada S, Umakoshi M, et al.	脳神経外科	A pediatric case of cauda equina dermoid cyst resected by minimally invasive unilateral hemilaminectomy	Acta Medica Okayama. 2022 Apr;76:217-223	Case report
109	Otani Y, Yoo JY, Shimizu T, et al.	脳神経外科	Implications of immune cells in oncolytic herpes simplex virotherapy for glioma	Brain Tumor Pathology. 2022 Apr;39:57-64	Original Article
110	Hiramatsu M, Ishibashi R, Suzuki E, et al.	脳神経外科	Incidence and clinical characteristics of spinal arteriovenous shunts: hospital-based surveillance in Okayama, Japan	Journal of Neurosurgery Spine. 2022 Apr;36:670-677	Original Article
111	Ebisudani Y, Sugiu K, Haruma J, et al.	脳神経外科	A case of delayed foreshortening and disconnection of pipeline embolization device detected by chronological cone-beam computed tomography fusion image	Acta Neurochir (Wien). 2022 Aug;164:2203-2206	Original Article
112	Okazaki Y, Sasaki T, Kawai K, et al.	脳神経外科	Two cases of monozygotic twins with early-onset isolated (DYT1) dystonia effectively treated with bilateral globus pallidus internus stimulation	NMC Case Report Journal. 2022 Sep;9:307-312	Case report
113	Suruga Y, Satomi K, Otani Y, et al.	脳神経外科	The utility of DNA methylation analysis in elderly patients with pilocytic astrocytoma morphology	Journal of Neuro-Oncology. 2022 Sep;160:179-189	Original Article
114	Yabuno S, Yasuhara T, Murai S, et al.	脳神経外科	Predictive factors of return home and return to work for intensive care unit survivors after traumatic brain injury with a follow-up period of 2 years	Neurologia Medico-Chirurgica. 2022 Oct;62:465-474	Case report
115	Nagase T, Ishida J, Sasada S, et al.	脳神経外科	IDH-mutant astrocytoma arising in the brainstem with symptom improvement by foramen magnum decompression: A case report	NMC Case Report Journal. 2023 Mar 24;10:75-80.	Case report
116	Morimoto D, Washio Y, Tamai K, et al.	小児科	Longitudinal Measurement of Histidine-Rich Glycoprotein Levels in Bronchopulmonary Dysplasia: A Pilot Study.	Biomedicines. 2023 Jan 14;11(1):212.	Original Article
117	Tsuge M, Koder A, Sumitomo H, et al.	小児科	Neonatal hemochromatosis with ϵ γ δ β -thalassemia: a case report and analysis of serum iron regulators.	BMC Pediatr. 2022 Oct 29;22(1):622.	Case report
118	Tsuge M, Ikeda M, Tsukahara H.	小児科	Novel Lung Growth Strategy with Biological Therapy Targeting Airway Remodeling in Childhood Bronchial Asthma.	Children (Basel). 2022 Aug 19;9(8):1253. doi: 10.3390/children9081253	Review
119	Ishida H, Kato M, Kawahara Y, et al.	小児科	Prognostic factors of children and adolescents with T-cell acute lymphoblastic leukemia after allogeneic transplantation.	Hematol Oncol. 2022 Aug;40(3):457-468.	Original Article
120	Baba K, Kondo M, Eitoku T, et al.	IVRセンター	Vascular occlusion with 0.035-inch hydrogel expandable coils in congenital heart diseases and vascular anomalies.	J Cardiol. 2022 Sep;80(3):249-254.	Original Article
121	Hasegawa K, Tanaka H, Futagawa N, et al.	小児科	Rapid Progression of Heterotopic Ossification in Severe Variant of Fibrodysplasia Ossificans Progressiva with p.Arg258Gly in ACVR1: A Case Report and Review of Clinical Phenotypes.	Case Rep Genet. 2022 Aug 25;2022:5021758..	Review
122	Kobayashi K, Shibata T, Tsuchiya H, et al.	小児神経科	Artificial Intelligence-based Detection of Epileptic Discharges from Pediatric Scalp Electroencephalograms: A Pilot Study.	Acta Med Okayama 2022 Dec;76:617-624	Original Article
123	Akiyama T, Kuki I, Kim K, et al.	小児神経科	Folic acid inhibits 5-methyltetrahydrofolate transport across the blood-cerebrospinal fluid barrier: Clinical biochemical data from two cases.	JIMD Rep 2022 Aug;63: 529-535	Case report

124	Nakamura K, Shigeyasu K, Okamoto K, et al.	産婦人科	ADAR1 and AZIN1 RNA editing function as an oncogene and contributes to immortalization in endometrial cancer	Gynecologic Oncology.2022 Aug;166:326-333	Original Article
125	Nakamura K, Shigeyasu K, Okamoto K, et al.	産婦人科	ADAR1 has an oncogenic function and can be a prognostic factor in cervical cancer	Sci Rep. 2023 Mar 23;13:4720.	Original Article
126	Mitoma T,Maki J, Ooba H, et al.	産婦人科	Protocol for a randomised, placebo-controlled, double-blinded clinical trial on the effect of oestrogen replacement on physical performance to muscle resistance exercise for older women with osteoarthritis of knee joint: the EPOK trial	BMC Geriatr . 2023 Feb 18;23:104.	Others
127	Tomita K, Iguchi T, Matsui Y, et al.	放射線科	Navicular Bone Fracture after Radiofrequency Ablation in a Patient with Osteoid Osteoma	Acta Med Okayama. 2023 Feb;77(1):81-84.	Case report
128	Uka M, Sakurai J, Matsui Y, et al.	放射線科	A single-center, single-arm, prospective, open-label trial to evaluate the efficacy and safety of percutaneous sclerotherapy with polidocanol for painful venous malformations (SCIRO-2001): study protocol	Nagoya J Med Sci. 2022 Nov;84(4):746-751.	Original Article
129	Iguchi T, Matsui Y, Hiraki T.	放射線科	Overcoming cold-sink effect of blood flow during thermal ablation of central renal cancer	Diagn Interv Imaging. 2022 Nov;103(11):497-498.	Others
130	Gobara H, Matsui Y, Uka M, et al.	医療情報部	Percutaneous cryoablation combined with prior transcatheter arterial embolization for renal cell carcinomas of 3 cm or larger: a prospective study	Int J Clin Oncol. 2022 Oct;27(10):1589-1595.	Original Article
131	Uka M, Iguchi T, Okawa N, et al.	放射線科	Percutaneous cryoablation for clinical T3a renal cell carcinoma (<7 cm) with segmental vein involvement or perinephric fat invasion based on preoperative evaluation of high-resolution multidetector computed tomography scan	Jpn J Radiol. 2022 Nov;40(11):1201-1209.	Original Article
132	Tomita K, Matsui Y, Uka M, et al.	放射線科	Evidence on percutaneous radiofrequency and microwave ablation for liver metastases over the last decade	Jpn J Radiol. 2022 Oct;40(10):1035-1045.	Review
133	Matsui Y, Tomita K, Uka M, et al.	放射線科	Up-to-date evidence on image-guided thermal ablation for metastatic lung tumors: a review	Jpn J Radiol. 2022 Oct;40(10):1024-1034.	Review
134	Tomita K, Iguchi T, Matsui Y, et al.	放射線科	Early enlarging cavitation after percutaneous radiofrequency ablation of lung tumors: Incidence, risk factors and outcome	Diagn Interv Imaging. 2022 Oct;103(10):464-471.	Original Article
135	Umakoshi N, Iguchi T, Hiraki T, et al.	放射線科	Correlation between renal ablation zone in contrast-enhanced CT and non-enhanced MRI during the early period following percutaneous cryoablation	Jpn J Radiol. 2022 Oct;40(10):1087-1095.	Original Article
136	Yoshio K, Ihara H, Okamoto K, et al.	放射線科	Tumor size before image-guided brachytherapy is an important factor of local control after radiotherapy for cervical squamous cell carcinoma: analysis in cases using central shielding	J Radiat Res. 2022 Sep 21;63(5):772-779.	Original Article
137	Iguchi T, Matsui Y, Tomita K, et al.	放射線科	CT fluoroscopy-guided biopsy of pulmonary lesions contacting the interlobar fissure: An analysis of 72 biopsies	Diagn Interv Imaging. 2022 Jun;103(6):302-309.	Original Article
138	Higaki F, Inoue S, Oda W, et al.	放射線科	MRI multiparametric scoring system for pial blood supply of intracranial meningiomas	Acta Radiol Open. 2022 Apr 8;11(4):20584601221091208.	Original Article
139	Tomita K, Iguchi T, Matsui Y, et al.	放射線科	Pneumodissection during percutaneous renal cryoablation resulting in massive subcutaneous and mediastinal emphysema	Diagn Interv Imaging. 2022 Apr;103(4):231-232.	Others
140	Matsui Y, Hiraki T, Sakurai J, et al.	放射線科	Percutaneous needle biopsy under 1.2 Tesla open MRI guidance	Jpn J Radiol. 2022 Apr;40(4):430-438.	Original Article
141	Hongo T, Yamamoto R, Liu K,et al.	救命救急科	Association between timing of speech and language therapy initiation and outcomes among post-extubation dysphagia patients: a multicenter retrospective cohort study.	Crit Care. 2022 Apr 8;26(1):98.	Original Article
142	Nojima T, Naito H, Obara T,et al.	救命救急科	Can Blood Ammonia Level, Prehospital Time, and Return of Spontaneous Circulation Predict Neurological Outcomes of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients? A Nationwide, Retrospective Cohort Study	J Clin Med. 2022 May 4;11(9):2566.	Original Article
143	Naito H, Nojima T, Yorifuji T, et al.	救命救急科	Mid-term (30- to 90-day)neurological changes in out-of-hospital cardiac arrest patients: A nationwide retrospective study (the JAAM-OHCA registry).	Am J Emerg Med. 2022 Aug;58:27-32.	Original Article
144	Nojima T, Yumoto T, Naito H, et al.	救命救急科	Thoracic vertebral fractures and azygos or hemiazygos vein injuries during cardiopulmonary resuscitation: Caution needed.	Resusc Plus. 2022 Jun 11;10:100261.	Letter

145	Kosaki Y, Naito H, Iida A, et al.	救命救急科	The Impact of Medical Students Teaching Basic Life Support to Laypersons.	Acta Med Okayama. 2022 Jun;76(3):265-271.	Original Article
146	Yamamoto S, Hongo T, Tamura T, et al.	救命救急科	Rare case of intracerebral hemorrhage in anaphylactic shock following administration of intramuscular adrenaline: A case report.	Clin Case Rep. 2022 Nov 15;10(11):e6534.	Case report
147	Yamamoto S, Kosaki Y, Uehara T, et al.	救命救急科	A Seat Belt Injury Causing a Large Breast Hematoma: A Case Report.	Cureus. 2023 Feb 25;15(2):e35440.	Case report
148	Obara T, Yumoto T, Aoshima K, et al.	救命救急科	Organ Donation after Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation and Brain Death.	Acta Med Okayama. 2023 Feb;77(1):117-120.	Case report
149	Yamamoto H, Hongo T, Nojima T, et al.	救命救急科	Successfully treated case of severe hypothermia secondary to myxedema coma.	Acute Med Surg. 2023 Mar 14;10(1):e828.	Case report
150	Nojima T, Obara T, Yamamoto H, et al.	救命救急科	Luminal administration of biliverdin ameliorates ischemia-reperfusion injury following intestinal transplant in rats.	Surgery. 2022 Nov;172(5):1522-1528.	Original Article
151	Obara T, Yamamoto H, Aokage T, et al.	救命救急科	Luminal Administration of a Water-soluble Carbon Monoxide-releasing Molecule (CORM-3) Mitigates Ischemia/Reperfusion Injury in Rats Following Intestinal Transplantation.	Transplantation. 2022 Jul 1;106(7):1365-1375.	Original Article
152	Yamamoto T, Taniguchi M, Matsunaga K, et al.	総合歯科部門	Analysis of Subgingival Microbiota in Monozygotic Twins with Different Severity and Progression Risk of Periodontitis.	Clinical Case Reports. 2022 Apr ;10:e05725.	Case report
153	Hatanaka K, Shirahase Y, Yoshida T, et al.	総合歯科部門	Enzymatic measurement of short-chain fatty acids and application in periodontal disease diagnosis.	PLoS One. 2022 Jul	Original Article
154	Takeuchi-Hatanaka K, Koyama Y, Okamoto K, et al.	総合歯科部門	Treatment resistance of rheumatoid arthritis relates to infection of periodontal pathogenic bacteria: a case-control cross-sectional study.	Sci Rep. 2022 Jul;12(1):12353	Original Article
155	Akiyama K, Aung KT, Talamini L, et al.	口腔インプラント科部門	Therapeutic effects of peptide P140 in a mouse periodontitis model	Cellular and Molecular Life Sciences .2022 Sep 15;79(10):518	Original Article
156	Minakuchi H, Fujisawa M, Abe Y, et al.	口腔インプラント科部門	Managements of sleep bruxism in adult: A systematic review	Japanese Dental Science Review 2022 Nov;58:124-136	Review
157	Yamada R, Tanaka Y, Sugimoto H, et al.	歯科補綴歯科部門	Effect of continuous sweet gustatory stimulation on salivary flow rate over time.	Arch Oral Biology. 2023 Feb;146:105590	Original Article
158	Kitagawa K, Kodama N, Manda Y, et al.	歯科補綴歯科部門	Effect of masseter muscle activity during wakefulness and sleep on tooth wear.	Journal of Prosthodontic Research. 2022 Oct;66(4):551-556	Original Article
159	Maruo Y, Yoshihara K, Irie M, et al.	歯科補綴歯科部門	Does Multifunctional Acrylate's Addition to Methacrylate Improve Its Flexural Properties and Bond Ability to CAD/CAM PMMA Block?	Materials. 2022 Oct;15(21):7564	Original Article
160	Sugimoto H, Tanaka Y, Kodama N, et al.	歯科補綴歯科部門	Effects of food particle loss on the evaluation of masticatory ability using image analysis.	Journal of Prosthodontic Research. 2022 Jul;66(3):484-490	Original Article
161	Sawada N, Takeuchi N, Ekuni D, et al.	予防歯科	Oral function, nutritional status and physical status in Japanese independent older adults.	Gerodontology. 2022 Dec;39(4):359-365	Original Article
162	Maruyama T, Ekuni D, Higuchi M, et al.	予防歯科	Relationship between Psychological Stress Determined by Voice Analysis and Periodontal Status: A Cohort Study.	Int J Environ Res Public Health. 2022 Aug;19(15):9489	Original Article
163	Amano K, Sugauchi A, Yamada C et al.	顎口腔再建外科学	Osteonecrosis of the Jaw in Two Rheumatoid Arthritis Patients Not Treated with a Bisphosphonate.	Acta Medica Okayama 2023 Feb;77(1):111-116.	Case report
164	Umemori K, Ono K, Kanemoto H, et al.	口腔顎顔面外科	Lip pleomorphic adenomas: case series and literature review.	Gland Surg. 2022 Oct; 11(10): 1730-1740	Case report
165	Ono K, Yoshioka N, Kunisada Y, et al.	口腔顎顔面外科	Craniofacial Fibrous Dysplasia Improved Cosmetic and Occlusal Problem by Comprehensive Treatment: A Case Report and Review of Current Treatments.	Diagnostics (Basel). 2022 Sep 3;12(9):2146	Case report

166	Murase Y, Yoshida S, Kishimoto K, et al.	口腔顎顔面外科	The Transoral Endoscope-Assisted Approach for Removal of a Dental Implant Displaced into the Maxillary Sinus: A Case Report and Review of the Literature.	J Maxillofac Oral Surg. 2022 Jun;21(2):639-647	Case report
167	Ono K, Sato K, Nakamura T, et al.	口腔顎顔面外科	Reproduction of the Antitumor Effect of Cisplatin and Cetuximab Using a Three-dimensional Spheroid Model in Oral Cancer.	Int J Med Sci. 2022 Jul 18;19(8):1320-1333.	Original Article
168	Tabata K, Hashimoto M, Takahashi H, et al.	矯正歯科	A morphometric analysis of the osteocyte canaliculus using applied automatic semantic segmentation by machine learning.	J Bone Miner Metab. 2022 Jul;40:571-580	Original Article
169	Anada R, Hara ES, Nagaoka N, et al.	歯科矯正学分野	Important roles of odontoblast membrane phospholipids in early dentin mineralization.	J Mater Chem B.2023 Jan;11:657-666	Original Article
170	Yoshida S, Inaba H, Nomura R, et al.	小児歯科	Green tea catechins inhibit Porphyromonas gulae LPS-induced inflammatory responses in human gingival epithelial cells.	Journal of Oral Biosciences. 2022Sep;64:352-358	Original Article
171	Naka S, Matsuoka D, Goto K, et al.,	小児歯科	Cnm of Streptococcus mutans is important for cell surface structure and membrane permeability.	Frontiers in Cellular and Infection Microbiology.2022Sep;12:994014	Original Article
172	Zamami Y, Niimura T, Kawashiri T, et al.	薬剤部	Identification of prophylactic drugs for oxaliplatin-induced peripheral neuropathy using big data.	Biomed Pharmacother. 2022 Apr;148:112744.	Original Article
173	Tatebe Y, Ushio S, Esumi S, et al.	薬剤部	Low-dose acyclovir for prophylaxis of varicella-zoster virus reactivation after hematopoietic stem cell transplantation in children.	Pediatr Blood Cancer. 2022 Dec;69(12):e29979.	Original Article
174	Higashionna T, Ushio S, Esumi S, et al.	薬剤部	Retrospective Cohort Study of Clinical Efficacy and Safety of Cefozopran for Treating febrile Neutropenia during Chemotherapy in Patients with Lung Cancer	Acta Med Okayama. 2022 Apr;76(2):167-172.	Original Article

計 174 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	①・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	①・無
・ 手順書の主な内容 研究者等の基本的責務、研究計画書の作成に関する手続き等、倫理委員会の活動、インフォームド・コンセントを受ける手続き等、個人情報保護法の安全管理、重篤な有害事象への対応、試料・情報の保管管理、モニタリング及び監査の実績、研究者等の教育研修	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年13回（倫理委員会） 年12回（臨床研究審査専門委員会）

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	①・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	①・無
・ 規定の主な内容 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年23回
-----------------------	------

・研修の主な内容

- ・ 医師、歯科医師等の特定臨床研究を行う者に対する研修会（11回）
- ・ 特定臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者に対する研修会（9回）
- ・ 認定臨床研究審査委員会の委員に対する研修会（3回）

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各診療領域における専門医・各学会が認めた認定医の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を地域連携研修登録医等として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	427 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科・総合診療科	科長	31 年	内科
大塚 基之	消化器内科	科長	25 年	
前田 嘉信	血液・腫瘍内科 呼吸器・アレルギー内科	科長	30 年	内科
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	31 年	内科
中村 一文	循環器内科	副科長	29 年	科長代理
石浦 浩之	脳神経内科	科長	21 年	
藤原 俊義	消化管外科	科長	38 年	
榎田 祐三	肝・胆・膵外科	科長	24 年	
豊岡 伸一	呼吸器外科	科長	29 年	外科
枝園 忠彦	乳腺・内分泌外科	科長	24 年	外科
荒木 元朗	泌尿器科	科長	25 年	
笠原 真悟	心臓血管外科 小児心臓血管外科	科長	32 年	
野田 卓男	小児外科	科長	39 年	
尾崎 敏文	整形外科	科長	36 年	
木股 敬裕	形成外科	科長	39 年	
森実 真	皮膚科	科長	23 年	
森實 祐基	眼科	科長	25 年	
安藤 瑞生	耳鼻咽喉科	科長	23 年	
高木 学	精神科神経科	科長	28 年	精神科
安原 隆雄	脳神経外科	副科長	25 年	科長代理
森松 博史	麻酔科蘇生科	科長	29 年	麻酔科
塚原 宏一	小児科 小児血液・腫瘍科	科長	37 年	

小林 勝弘	小児神経科	科長	40年	
岩崎 達雄	小児麻酔科	科長	32年	麻酔科
増山 寿	産科婦人科	科長	36年	産婦人科
平木 隆夫	放射線科	科長	27年	
中尾 篤典	救急救命科	科長	30年	救急科
柳井 広之	病理診断科	科長	27年	
平沢 晃	臨床遺伝子診療科	科長	28年	産婦人科
山本 直史	歯科総合歯科部門	部門長	28年	歯科
大原 直子	歯科保存歯科部門	副部門長	30年	歯科 部門長代理
高柴 正悟	歯科歯周科部門	部門長	35年	歯科
窪木 拓男	歯科口腔インプラント科部門	科長・部門長	37年	歯科
原 哲也	歯科補綴歯科部門	副部門長	36年	歯科
江國 大輔	歯科予防歯科部門	部門長	24年	歯科
浅海 淳一	歯科歯科放射線科部門	部門長	39年	歯科
宮脇 卓也	歯科歯科麻酔科部門	部門長	35年	歯科
飯田 征二	口腔外科顎口腔再建外科部門	科長・部門長	37年	歯科口腔外科
伊原木 聡一郎	口腔外科口腔顎顔面外科部門	部門長	20年	歯科口腔外科
上岡 寛	矯正歯科	科長	34年	
仲野 道代	小児歯科	科長	30年	
濱田 全紀	総合リハビリテーション部	副部長	31年	リハビリテーション科
曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	部長	24年	歯科
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長	35年	歯科

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に 参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署、チーム等において、多職種連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域 等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 前田 嘉信	
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫、放射線部長 平木 隆夫、医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 塚原 宏一、薬剤部長 座間味 義人、看護部長 岩谷 美貴子、総務課長 恒國 昭二、企画・広報課長 石尾 裕則、医事課長 藤井 慎一、各診療科長・中央診療施設長	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	岡山大学病院総務課
		各科診療日誌	岡山大学病院各診療科・中央診療施設
		処方せん	岡山大学病院薬剤部
		手術記録	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
		看護記録	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
		検査所見記録	岡山大学病院各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
		エックス線写真	岡山大学病院放射線部
		紹介状	各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設、岡山大学病院医療情報部、岡山大学病院医事課
		従業者数を明らかにする帳簿	岡山大学病院総務課
		高度の医療の提供の実績	岡山大学病院医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	岡山大学病院総務課
		高度の医療の研修の実績	岡山大学病院総務課
		閲覧実績	岡山大学病院企画・広報課
		紹介患者に対する医療提供の実績	岡山大学病院医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	岡山大学病院医事課、岡山大学病院薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	岡山大学病院医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	岡山大学病院医療安全管理部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	岡山大学病院感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	岡山大学病院医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	岡山大学病院感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	岡山大学病院医療機器安全管理室、岡山大学病院医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	岡山大学病院総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	岡山大学病院感染制御部、岡山大学病院医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	岡山大学病院薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	岡山大学病院企画・広報課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	岡山大学病院医事課
		医療安全管理部門の設置状況	岡山大学病院医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	岡山大学病院医事課
		監査委員会の設置状況	岡山大学法人監査室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	岡山大学病院医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	岡山大学法人監査室
		職員研修の実施状況	岡山大学病院総務課、岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	岡山大学病院医事課、岡山大学病院医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	岡山大学病院総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	岡山大学総務・企画部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 前田 嘉信
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 石尾 裕則
閲覧の求めに応じる場所	管理棟3階
閲覧の手続の概要 閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続きを行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療安全管理のための委員会・医療安全管理責任者の配置 ・ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 医療安全管理部 ・ 医療事故発生時の対応に関する基本方針 ・ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・ 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品・医療機器等についての安全管理 ・ 内部通報窓口の設置 ・ 外部監査の実施 ・ 特定機能病院間におけるピアレビュー ・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <p>次の各事項を審議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における医療安全管理に関する重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること（省令第一条十一ニロについて実施） ・ 定期的な事故防止対策に関する調査及び方策の見直しに関すること（省令第一条十一ニハについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況に関すること（省令第一条十一ニイについて実施） ・ 『入院患者が死亡した場合の当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する報告の実施状況』及び『入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要となったものとして、インシデントレベル3b以上の事象が発生した場合の当該事象の発生の事実及び発生前の状況の報告の実施状況』が不十分な場合における適切な報告のための研修及び指導に関すること（省令第一条十一ニロ、ハについて実施） ・ その他医療安全管理に関すること（省令第一条十一ニイ、ロ、ハについて実施） 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： 1) 「医療機器取り扱いについて」「麻薬取り扱い業務について」「臨床倫理コンサルテーションについて」「病院情報システムに対する標的型攻撃」（全職員対象共通内容） 2) 「Rapid Response Systemについて」外（感染制御部との合同職員全体研修、全職員対象共通内容） 3) 「心肺蘇生法」（全職員対象共通内容） 	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ マニュアルの整備
 - ・ インシデントレポートシステム
 - ・ ペイシェントセーフティマネジャーの配置
 - ・ 医療安全管理委員会の設置
 - ・ 医療事故等調査委員会
 - ・ 医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 委員会について 3) 感染制御部の業務内容 4) 院内感染対策のための職員教育及び研修 5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針 7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9) 他施設との感染対策地域連携に関する基本方針 10) 一種感染症指定病院としての基本方針 11) 一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年76回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防対策委員会 1回/月 合計12回 ・ ペイシエントセーフティマネジャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う） 1回/月 合計12回 ・ 感染制御部職員会議 1回/月 合計12回 <p>以上3委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 耐性菌サーベイランス、侵襲的処置別感染症サーベイランス ② 感染予防対策立案と指導、マニュアルの管理 ③ 抗菌薬使用の管理 ④ ICT（リスクマネジャーがICTメンバーを兼ねる）との連携 ⑤ 重症感染症、特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦ 針刺し、体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核、流行性疾患など） ⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導、環境整備に関する管理と指導 ⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護部感染対策リンクナース会 1回/月 合計12回 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 感染防止の視点からの看護手順の作成 環境整備の状況把握と指導 ・ 新型コロナウイルス対策会議 1回/週 合計40回 ・ 新型コロナウイルスコア会議 適宜 COVID-ICTチーム、COVID-ERT（重症集中）チーム、COVID-BCT（ベッドコントロール）チーム 新型コロナワクチンWG、COVID-ICTコア会議、陽性者対応臨時会議 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全職員対象院内感染対策講習会 3回/年（各会1回、②は医療安全研修会と合同開催） ① 針刺し事故防止について、結核の院内感染予防について、アンチバイオグラムと薬剤耐性菌の検出状況、標準予防策 ② TDMについて ③ 感染対策とアウトブレイク対応 2) 新規採用者研修 1回 3) 看護補助者に対する研修会 1回 標準予防策 講義 4) 臨床実習前の学生への講義 2回 	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

・ 感染予防対策委員会、ペイシェントセーフティマネジャー会議、看護部感染対策リンクナース会、看護師長会などを通じて毎月重要な情報伝達と周知を行っている。
・ 感染制御部NEWSを1回/2ヶ月のペースで配信し、流行している疾患の情報や新規作成または改訂したマニュアルの情報提供を行っている。また、随時、所属長宛にその都度メール配信して 注意喚起や情報提供を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月 新規採用職員オリエンテーション－医療事故防止について(薬剤部)－ 令和4年5月 麻薬の適切な管理について、麻薬事故の具体的な事例について 令和4年6月 アンチバイオグラムと薬剤耐性菌検出状況 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の採用・購入・管理 ・ 病棟・各部門への医薬品の供給 ・ 患者への医薬品の使用 ・ 病棟等における医薬品の管理 ・ 医薬品情報の収集・管理・周知 ・ 他施設との連携 ・ 放射性医薬品の管理 ・ 院内製剤の運用 ・ 重大な有害事象の予防および対応(事故発生時の対応、教育・研修) ・ 医薬品関連の情報システムの利用 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (ア) 処置薬マスタの見直し・運用方法の改善 <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ内の処置薬マスタを見直し、処置薬マスタの標準化およびマスタ管理体制を構築した。 (イ) 薬品マスタを活用した医薬品の安全管理 <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテおよび薬剤部門システムの薬品マスタ機能(自動展開コメント機能、用量上限機能、小児薬用量)を活用し、処方オーダー時の医薬品安全管理体制を整備した。 	

(ウ) 病棟薬剤師による処方作成支援プロトコルの運用

医薬品の適正使用およびリスクマネジメント向上の観点から、病棟薬剤師による処方作成支援業務（代行入力）の体制を整備し、運用を開始した。

(エ) 薬剤師による外来診療への支援体制の整備

外来診療における薬物治療の質的向上およびリスクマネジメントの観点から薬剤師による診療支援体制を構築し、運用を開始した（腎臓病おくすりサポート外来、自己注射サポート外来）

(オ) その他

- ・ 医薬品の適正使用等に関連する情報を院内情報誌（DI-News）の作成（昨年度：12報）
- ・ PSM会議における医薬品の安全使用に対する警鐘事例の報告（昨年度：12例）
- ・ 医薬品による有害反応の重篤化の回避、未然回避、さらには薬物治療効果の向上に貢献した事例および発生状況の分析および評価の報告（昨年度：12回）
- ・ 薬剤部リスクマネジメント委員会の開催（昨年度：12回開催）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年88回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期研修 <ol style="list-style-type: none"> 1. MRI装置の安全性：装置の安全性と入室時の注意事項について 2. 放射線治療装置の安全管理：装置の使用方法和注意事項について 3. 放射線治療装置の災害対応訓練：緊急時の対応訓練 4. RALS緊急時マニュアル：緊急時の対応訓練 5. マイクロセレクトロンHDR-V2の安全性：装置の使用方法和注意事項について 6. 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講（学会主催のもの） 7. 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について 8. 血液浄化装置：機器の取り扱いと注意事項について 9. 除細動装置：機器の取り扱いと注意事項について 10. 閉鎖式保育器：機器の取り扱いと注意事項について 11. 注入ポンプ(PCAポンプ)：機器の取り扱いと注意事項について ・ 新しい医療機器導入時の研修 <ol style="list-style-type: none"> 1. 全身用X線CT診断装置 NAEOTOM Alpha 新規導入説明会 2. 循環器用X線透視診断装置 Azurion 7 B12 新規導入時研修 3. 一般撮影装置 RADREX 新規導入説明会 4. 臨床検査機器装置：機器取り扱い説明 5. 人工呼吸器 6. 血液浄化装置 7. 補助循環装置 8. 1週間ホルター心電図検査Heartnote（JSR株式会社）運用開始時 取り扱い説明 9. クリオシールCS1 操作説明 10. その他（各種試用機器） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. X線装置：定期点検（機種により年1～4回）、使用前点検 2. 診療用高エネルギー放射線発生装置：定期点検（年4回）、使用前点検 3. 診療用放射線照射装置：定期点検（年1回）、使用前点検 4. 臨床検査機器装置：定期点検（機種により1～3回/年）、日常点検（始業時、終了時点検） 5. 会議（1回/月）にて当月の保守点検実施予定機器の報告 6. 人工心肺装置：定期点検（年1回）、日常点検（始業点検/終業点検） 7. 人工呼吸器：定期点検（年2回）、使用前点検 8. 血液浄化装置：定期点検（年2回）、使用前点検、透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定、細菌培養（毎月） 	

- 9. 除細動装置：定期点検（年2回）
- 10. 閉鎖式保育器：定期点検（年1回）

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有 ・ 無 ）
 - 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集
 - メーカー、業者からの情報提供
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：
 - 該当なし
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集
 2. 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTERからの情報収集
 3. メーカー、業者からの情報提供
 4. 硬膜外PCAポンプ無痛分娩使用時の設定間違いへの対応
 5. シリンジポンプ（TE-332）停止事例への対応
 6. IVRセンター麻酔器関連インシデント事例への対応
 7. 機器のversionがupしたり、他でのトラブル事象の発覚した際、試料の取り扱い方法に関しての変更等がある際には、営業・学術が検査室に説明に訪れる体制を整えている

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input type="checkbox"/>歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の各業務について確認を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>院内における医薬品の使用状況や副作用情報等の医薬品に関する情報の収集、整理、周知は薬品情報室で管理・運用している。</p> <p>薬品情報室では、得られた情報を必要に応じて院内情報誌（DI-News）へ掲載し、診療科および診療部門へ情報提供を行っている。とくに、緊急安全性情報（イエローレター）や安全性速報（ブルーレター）等の緊急性が高い情報については、薬剤部門システムより当該医薬品の使用状況を抽出し、当該薬品の使用経験のある医師を特定し、その医師に対して個別的に情報提供を実施している。また、院内で発生した有害反応の未然回避および重篤化回避した事例を収集し、医療安全上、多職種で共有しておくべき内容については、「警鐘事例」としてPSM会議および医療安全管理委員会で報告している。造影剤に関する有害反応の情報は、診療情報管理室から定期的に情報提供を受け、医薬品安全管理責任者へ報告し、薬剤部で一元的に管理している。</p> <p>医薬品に関する情報の周知の状況を確認する手段としては、薬剤部から情報提供する際に「医薬品情報に関する確認書」を送付し、確認書の返答により院内の周知状況を確認している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品情報については、未承認新規医薬品・医療機器安全管理部門および薬事委員会からの情報提供、さらには薬剤部門システムからのデータ抽出および薬剤師の薬剤業務によりこれら情報を収集している。薬剤師が未承認等の医薬品情報を把握した際は、処方医に対して、処方の必要性、リスク対策、さらに処方の妥当性についての確認を行い、その情報については、薬剤部内で一元管理を行い、定期的に医療安全管理責任者が確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・<input type="checkbox"/>無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部、職種 副薬剤部長） （所属：薬剤部、職種 薬品情報管理室主任）</p> <p>（所属：、職種） （所属：、職種）</p> <p>（所属：、職種） （所属：、職種）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： インフォームド・コンセントに係る責任者は、副病院長（診療（医科）担当）をもって充てる。 定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し、必要に応じて診療科長等会議において、報告及び指導等を行う。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>2020年度より、（岡山大学病院における診療記録の多職種による監査の運用に関する申合せ）の規定に基づいて、診療記録管理委員会で承認された、多職種監査チームによる監査を実施している。診療情報管理室では退院1週間後を目途に退院患者全体に対して量的監査（入院診療計画書、手術記録、退院時要約など）を実施している。加えて、質的監査も多職種監査とは別に、監査項目数を増やして実施している。監査結果については「診療記録の監査に関する小委員会」で報告、小委員会の委員長より診療科長等会議にて院内周知を行っている。また、IC項目についてはIC委員会へ報告を行っている。</p> <p>主な指導内容としては、退院時要約の記載について、不備のない同意書の記載について、不備のない入院診療計画書の記載について、経過記録への記載についてなど。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・所属職員：専従（4）名、専任（3）名、兼任（29）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（16）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>一 医療安全管理委員会に係る事務に関すること。</p> <p>二 事故、入院患者の死亡及びレベル3b以上のインシデント等病院長が認める事象が発生した場合における診療録の確認、患者又は家族への説明、当該事象の発生の原因究明と対応状況確認及びそれに基づく必要な指導に関すること。</p>	

三 医療に係る安全管理に関する連絡調整に関すること。

四 医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。

五 医療に係る安全の確保に資する診療状況の把握及び職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。

六 医療事故調査等支援団体に関すること。

七 その他医療事故の防止・医療の安全性の向上に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（6件）

・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

評価委員会の設置（医療安全管理部門の医師等を構成員に含む）

業務（提供の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、適用症例の事後検証など）

構成員（手術を行う部門（外科系）に所属する職員含む）

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（25件）、及び許可件数（25件）

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

評価委員会の設置（医療安全管理部門の薬剤師を構成員に含む）

業務（使用の条件及び使用の適否の決定に関すること（確認事項、従業者の遵守事項）、評価委員会への諮問、診療科との調整、使用症例の事後検証など）

<p>構成員（医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ）
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 200 件（R04.04～R05.03） ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 110 件（R04.04～R05.03） ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p>医療事故の防止及び対策、医療事故防止マニュアルの作成、医療事故防止の教育・研修、及び警鐘事例周知、インシデントレポート件数の把握、3b 以上の把握等</p>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の特定機能病院等への立入り（ <input checked="" type="checkbox"/> （病院名：山形大学（Web 訪問審査）） ・ 無） ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ <input checked="" type="checkbox"/> （病院名：東京大学（Web 訪問審査）） ・ 無） ・ 技術的助言の実施状況 <p>インシデントレポートの医師の報告率向上の取組みを継続する様にとの助言を受けて、医師一人当たりの報告数を定期（半年毎）で出すことで可視化を目指した結果、全報告数に対する医師の報告率は令和 5 年 1 月から 7 月の平均値が 7.54%になり、昨年の同月平均値より 0.56 ポイント上昇した。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の確保状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者相談窓口を総合患者支援センターに設置 ・ 窓口の活動に関する患者等への明示として、患者相談窓口の活動趣旨、患者相談窓口の設置場所、患者相談窓口の担当者、責任者、患者相談窓口の対応時間を総合患者支援センター、医事課、病棟ほかに明示 ・ 窓口の活動に関する規約を整備 ・ 相談により患者や家族が不利益を受けないような適切な配慮として、患者やその家族のプライバシーを尊重するため、専用の相談室（4 部屋）を設置 ・ 窓口以外の苦情相談の受付方法は電話相談・投書箱（14 か所） ・ インターネット（電子メール）を用意 ・ 苦情、相談の処理方法として、記録の整備・管理の適正化、各部署との連携・管理者への

報告・安全対策等の見直しへの活用等を実施

- ・ 苦情、相談内容の共有として、毎週1回の相談担当者によるカンファレンス、月に1回の相談担当者と各部門担当者との会議を介しての情報共有

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

令和4年度は、令和4年4月1日より新規採用職員オリエンテーション「医療事故防止について」等についての研修を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

2022年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人 日本医療機能評価機構）を下記の日程で受講した。

管理者（前田 嘉信）：2023年2月7日

医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者（塚原 宏一）：2023年2月20日

医薬品安全管理責任者（座間味 義人）：2023年2月2日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

令和元年度に、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、主に以下2点の整備が当院に必要との指摘があった。

① 急変前兆候を捉えて対応する仕組み

② 侵襲的処置において確実・安全に鎮静剤・鎮痛剤を使用するための体制

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

指摘に対し、院内にWGや委員会を立ち上げ、体制確保に向けた準備を行い、現時点で以下までの措置を講じた。

① 当院でのラピッドレスポンスシステム（RRS）の稼働を決定し、2021年10月より本格的に運用を開始した。個別の症例についての検討やフィードバックも確実にを行い、活動内容はRRTレターにまとめ、毎月のPSM会議で院内に向け、共有を図っている。

② 鎮静剤・鎮痛剤について麻酔医の管理外での使用を安全が担保されるまで全面禁止した。使用開始に向けて、医療者教育と並行し、鎮静剤・鎮痛剤を使用する検査や処置を行う医療者対象の院内認定制度を創設し、2021年9月から制度を稼働した。

院内認定制度は順調に運用し、改善審査が行われた時点では1,000名以上の看護師、70名以上の医師を認定した。また、「現在使用している鎮静・鎮痛剤使用時の基準」「消化器内視鏡検査・処置時の鎮静管理マニュアル」を整備し、鎮静・鎮痛の適応の決定から帰宅・帰室まで安全に管理・運用する手順を明記した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ○人格が高潔で、学識が優れ、教育及び医療に関し高い見識を有すること ○リーダーシップを発揮し、本学の運営方針に基づき、病院運営にあたる者として、学長と基本的な方向性を共有していること ○医療法その他関係法令に基づく管理者として求められる能力及び経験を有する者であること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ○大学ホームページにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ○大学ホームページにて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
袖山 禎之	理事(財務・施設 担当)・事務局長	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
伊達 勲	学術研究院医歯 薬学域		大学院医歯薬学総合研究科長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
廣畑 聡	学術研究院保健 学域		大学院保健学研究科長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
豊岡 伸一	学術研究院医歯 薬学域		医学部長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
大原 直也	学術研究院医歯 薬学域		歯学部長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無

狩野 光伸	学術研究院ヘル スシステム統合 科学学域		薬学部長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
岩谷 美貴 子	岡山大学病院		岡山大学病院看護部長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
仲井 精一	岡山大学病院事 務部		岡山大学病院事務部長 (役職指定)	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
黒住 宗晴	公益社団法人 日本工芸会 中国支部		社会福祉に対して幅広い見識 を有する学外者	有・ <input type="checkbox"/>
難波 義夫	岡山県病院協会		医療行政に対して幅広い見識 を有する学外者	有・ <input type="checkbox"/>
那須 保友	理事(研究担当) ・副学長		現に国立大学法人岡山大学長 適任者選考規則第9条の規定 により決定された学長適任者 である者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
中島 基善	岡山県経済団体 連絡協議会		企業経営に対して幅広い見識 を有する学外者	<input checked="" type="checkbox"/> ・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 合議体として、診療科長等会議を設置しており、病院長の諮問に応じ、次の事項を審議している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の運営の方針に関する事項 ・ 病院の中期計画に関する事項 ・ 病院の予算編成及び決算に関する事項 ・ その他病院の運営に関する重要な事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 会議の資料を院内HP（学内限定）に掲載している。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
前田 嘉信	○	医師	病院長、診療科長、教授、センター長
森実 真		医師	副病院長、診療科長、教授
増山 寿		医師	副病院長、診療科長、教授
窪木 拓男		歯科医師	副病院長、診療科長、教授
伊野 英男		医師	副病院長、教授
和田 淳		医師	副病院長、教授
上岡 寛		歯科医師	副病院長、診療科長、教授
塚原 宏一		医師	副病院長、診療科長、教授
岩谷 美貴子		看護師	副病院長、看護部長
大塚 文男		医師	診療科長、病院教授
大塚 基之		医師	診療科長、教授
石浦 浩之		医師	診療科長、教授
藤原 俊義		医師	診療科長、病院教授

榎田 祐三		医師	診療科長、教授
豊岡 伸一		医師	診療科長、病院教授
枝園 忠彦		医師	診療科長、教授
荒木 元朗		医師	診療科長、准教授
笠原 真悟		医師	診療科長、准教授、室長
野田 卓男		医師	診療科長、教授、部長
尾崎 敏文		医師	診療科長、病院教授
木股 敬裕		医師	診療科長、教授
森實 佑基		医師	診療科長、教授
安藤 瑞生		医師	診療科長、教授
高木 学		医師	診療科長、教授
森松 博史		医師	診療科長、教授
小林 勝弘		医師	診療科長、教授
岩崎 達雄		医師	診療科長、病院教授
平木 隆夫		医師	診療科長、教授、室長
岡田 あゆみ		医師	診療科長、准教授
中尾 篤典		医師	診療科長、教授
柳井 広之		医師	診療科長、教授
田端 雅弘		医師	診療科長、病院教授、センター長
平沢 晃		医師	診療科長、教授
山本 直史		歯科医師	診療科長、病院教授
高柴 正悟		歯科医師	診療科長、教授
江國 大輔		歯科医師	診療科長、教授
浅海 淳一		歯科医師	部門長、教授
宮脇 卓也		歯科医師	部門長、教授
飯田 征二		歯科医師	診療科長、教授
伊原木 聡一郎		歯科医師	部門長、教授
仲野 道代		歯科医師	部門長、教授
松川 昭博		医師	部長、教授
藤井 伸治		医師	部長、准教授
加藤 博也		医師	部長、准教授

曾我 賢彦		歯科医師	部長、准教授
稲垣 兼一		医師	センター長、准教授
難波 祐三郎		医師	センター長、病院教授
平岡 佐規子		歯科医師	センター長、准教授
西田 圭一郎		医師	センター長、教授
江草 正彦		歯科医師	センター長、病院教授
柳 文修		歯科医師	室長、教授
郷原 英夫		医師	部長、病院教授
大月 審一		医師	病院教授
座間味 義人		薬剤師	病院教授、薬剤部長
四方 賢一		医師	病院教授
王 英正		医師	病院教授
渡部 昌実		医師	病院教授
堀田 勝幸		医師	病院教授
櫻井 淳		医師	病院教授
本田 貢		放射線技師	医療技術部長
川村 篤		事務	事務部長
井上 貴裕		病院長補佐	経営戦略支援部長、客員教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ・ 無 ）
 - ・ 公表の方法
大学のホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
病院長は、病院の管理及び運営に必要な人事（岡山大学長が任命権を有するものを除く。）及び予算執行権限を有する。
病院長は、病院の運営の方針、中期計画、予算編成、決算及びその他の病院の運営に関する重要な事項については、診療科長等会議の議を経て決定する。
病院長は、病院の管理運営に関することをつかさどり、所属職員を監督する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長を助け、病院長の職務を円滑に遂行させるため、それぞれ次の業務を分担している。
(1) 企画・総務運営担当 (2) 診療（医科）担当（兼）防災担当
(3) 診療・研究（歯科）担当 (4) 教育（医科）担当 (5) 研究（医科）担当
(6) 教育（歯科）担当 (7) 医療安全管理担当 (8) 看護・患者サービス担当
病院長補佐は、病院の経営分析及び経営改善に関し、提案及び助言を行い、病院長の職務を助けている。
広報については、事務部に企画・広報課を置き、対応している。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 病院長の職務を円滑に遂行させるため、副病院長を複数名置き、それぞれの病院の管理運営に関する業務を分担している。
 - 特定機能病院管理者研修に管理者、医療安全管理責任者・医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理責任者が参加している。
 - 公開講座「おかやま病院経営『トラの穴』講座」を開講し、本院から副病院長が2名受講している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回（令和5年度第1回委員会を令和5年7月6日に実施，第2回委員会を令和5年11月17日に開催予定）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。</p> <p>○安全管理状況及び改善状況について審議する。</p> <p>○病院の業務状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認する。</p> <p>○審議の結果に基づき，学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。</p> <p>○審議の結果及び監査意見を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・ 公表の方法：ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松山 正春	岡山県医師会 (会長)	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
長谷川 威	岡山中央法律事務所 (弁護士)		法律に関する識見を有するため	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
清板 芳子	ノートルダム清心女子大学 (名誉教授)		医療を受ける者の代表者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
国立大学法人岡山大学内部統制規則に基づき、業務の有効性及び効率性の向上、財務報告の信頼性の確保、事業活動に係る法令等遵守の促進並びに資産の保全を図るため、当該組織及び所掌する業務における内部統制の整備及び運用状況について、内部統制委員会に定期的に報告を行うこととしている。内部統制委員会では、定期的に報告される内部統制の整備及び運用状況に基づき、是正措置を講じた内容等について、必要に応じて当該措置の妥当性の検証を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法 大学ホームページにて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人法（平成15年法律第112号）の規定に基づき、経営協議会を設置して、中期計画及び年次計画に関する事項のうち、法人の経営に関するもの、並びに予算の作成、執行及び決算に関する事項として病院を含めた法人の経営に関する事項を審議している。 その他に大学内に病院の管理者を含めた大学の役員等を構成員とした大学経営戦略会議を設置し、病院の経営状態を報告している。 ・ 会議体の実施状況（経営協議会 年6回 大学経営戦略会議 年41回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） （経営協議会 年6回 大学経営戦略会議 年41回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 経営協議会について、会議の規則、構成員名簿及び議事要旨を、大学ホームページにて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法<ul style="list-style-type: none">○ ホームページに掲載○ 医療安全ポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>市民等を対象とした公開講座等の開催</p> <p>病院HPにおいて診療体制やコロナ・アフターケア外来などの専門外来などについて情報発信</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>診療科等の連携によるセンターの設置をしている。</p> <p>複数の診療科で構成する中央診療施設の設置をしている。</p>	